

5

魚

類

Red Data Book of Wakayama Prefecture

魚類の概要

平嶋 健太郎

ここで取り上げる「魚類」とは生活史の分類上で純淡水魚、通し回遊魚、周縁性淡水魚に該当するものであり、環境省レッドリスト「汽水・淡水魚類」（環境省，2020）の選定評価対象種の基準とほぼ一致する種に加え、今回の改訂から、海岸域（大潮最低潮位より2 m程度の水深まで）に生息する魚類を加えた。この「海岸域」という基準は非常に線引きが難しいが、「一般に沿岸で目にすることができる魚種」というように考えていただきたい。これは、和歌山県独自の基準に基づくものである。

前々回（和歌山県環境生活部，2001）及び前回（和歌山県環境生活部，2012）の県版レッドデータブック及び令和4年度公表の和歌山県版レッドリスト（和歌山県環境生活部，2022）を受けて、本レッドデータブックの改訂作業を行った。まず、県内でみられると考えられる魚類は、中坊（2013）や池田・中坊（2015）、その他多くの過去の記録や資料等を考慮して（福井，1999；細谷，2019；環境省，2017）、生息が予想される種まで含めると、約47目297科2,020種に上った（2020年10月当時）。そのうち、国内外からの移入種を除き、今回の評価範囲（淡水・汽水・海岸）に該当する21目116科688種に絞り込んだ。更に、偶発的に確認された種を除いた結果、最新の情報も加味して、生息域が著しく縮小している種、県内における個体群が、元々非常に小さい種、県内では非常に限定的な地域のみに見られる種等を中心に（瀬能，2021；日本魚類学会，2021；鹿児島大学総合博物館，2021）、本報告の9目20科78種の選定に至った。

当然、種（種群）によって調査研究の進み具合や県内における個体群の大きさはまちまちであり、一律に正確で詳細な知見に基づいて今回のカテゴリーを判断したと言い難い点は、ご容赦いただきたい。また、対象とした文献記録は、前回の改訂に従い宇井（1924）以降を有効とした。また、印刷物以外に電子ジャーナル誌も文献資料に加え、更に正確性や客観性が認められればインターネットの情報（Fishes of Kii Peninsula 紀伊半島のさかな，2021；平嶋，2021；串本海中公園，2021；日本淡水魚類愛護会，2021）も参考にした。

特にヤマトイワナ（キリクチ）やサツキマス（アマゴ）、カジカは、現存する県内産の標本や正確な情報が極めて乏しい。また、実際に生息するとしてもその個体数は非常に少なく、人為的攪乱の影響が今なお続いていることから、遺伝学的研究に頼りつつ、現状の把握と個体群の維持を推し進めねばならない。また、アユは県の外来種リスト（和歌山県環境生活部，2019）にもあるように、国内移入が繰り返されている。その一方で、在来集団の産卵床を維持しようとする地域住民や漁協関係者の取り組みも見られる。本書がそのような活動の後押しとなれば幸いである。もちろん、河川には上記の希少な魚類以外の生き物が多数生息しており、それらの生息環境と個体群が維持できてこそ、希少魚類が生息でき得る環境が保たれることを忘れてはならない。

また、今回の改訂による対象基準の変更で、ハタ科、ヨウジウオ科、ハゼ科等の海岸域の魚類が追加された。このような変更は、和歌山県沿岸の自然環境の多様性と沿岸域における黒潮の影響を色濃く示す結果となった。更に、これまでと同様にアブラハヤやアカザ、シマヒレヨシノボリ等、和歌山県及び紀伊半島の地史的な特徴を示す種も掲載し、生物地理学的な学術面も重視した。一方で、希少性や学術的な意味合いが強いものの、生息環境が今回の「海岸域」の定義に一致しないために選定から漏れた種も多数存在していたことを断っておく。今後の改訂時には海域の定義の見直しと共に改めて検討される種も含まれるであろう。

いずれにせよ、本県の沿岸から汽水、河川（淡水域）、そして水源地域までのつながりは、決

して絶ってはいけない繋がりである。今回選定された78種のうち、およそ半数が海と川を行き来する生活（通し回遊）を送ることや、それらには水産的に重要な魚種も含まれることから、我々もその生態系の恩恵を受けて生活していることを改めて自覚する必要があるだろう。特に行政は災害対策の充実や住民サービス拡張、観光促進の面で、これら生態系の維持、保全こそが最も有効で持続的な利活用を行う手だてであることを認識しなければ、本県が従来持つ最大の利点を活用することなく衰退することは明白である。本報告が、その一助になることを祈る。

(参考文献)

- 1 Fishes of Kii Peninsula 紀伊半島のさかな。
<https://nature-key-peninsula.hatenadiary.com/> (2021. 06. 05. 参照)
- 2 福井正二郎. 1999. 紀州・熊野採集 日本魚類図譜. 335pp. はる書房, 東京.
- 3 平嶋健太郎. 2021. ハゼの部屋, 和歌山県立自然博物館ホームページ
<https://www.shizenhaku.wakayama-c.ed.jp/reserch/hirashima/res-hirashima.html>
(2021. 06. 05. 参照)
- 4 細谷和海 (編・監修). 2019. 増補改訂 日本の淡水魚. 559pp. 山と溪谷社, 東京.
- 5 池田博美・中坊徹次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 597pp. 東海大学出版部, 秦野.
- 6 鹿児島大学総合研究博物館. 2021. 日本産魚類全種リスト.
<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>
(2021. 06. 05. 参照)
- 7 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水魚類. 環境省ホームページ.
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2021. 06. 05. 参照)
- 8 環境省. 2017. 魚類, 海洋生物レッドリスト. 環境省ホームページ.
<https://www.env.go.jp/press/files/jp/106403.pdf> (2021. 06. 05. 参照)
- 9 串本海中公園. 2021. 海中展望塔お魚図鑑.
http://www.kushimoto.co.jp/facilities_tower_zukan.php (2021. 07. 25. 参照)
- 10 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 11 日本魚類学会. 2021. 日本産魚類追加種リスト.
http://www.fish-isj.jp/info/list_additon.html. (2021. 06. 05. 参照)
- 12 日本淡水魚類愛護会. 2021. 淡水魚写真図鑑.
<https://tansuigyo.net/a/gao/a.html> (2021. 07. 25. 参照)
- 13 瀬能 宏 (編・監修). 2021. 新版 日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 14 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
- 15 和歌山県環境生活部 (編). 2001. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブッカー. 428pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課, 和歌山.
- 16 和歌山県環境生活部 (編). 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブッカー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 17 和歌山県環境生活部 (編). 2019. 和歌山県の外来種リスト. 89pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 18 和歌山県環境生活部 (編). 2022. 和歌山県レッドリスト 2022. 48pp. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.

● 絶滅 (EX)

ヤマトイワナ (キリクチ)
アオギス
カジカ

● 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

スナヤツメ (南方種)
ヤリタナゴ
アブラボテ
イチモンジタナゴ
カネヒラ
チュウガタスジシマドジョウ
ナガレホトケドジョウ
サツキマス (アマゴ)
カマキリ (アユカケ)
ウツセミカジカ
ユウスイミミズハゼ
シロウオ
タビラクチ
クボハゼ
エドハゼ

● 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イトモロコ
アカザ
ミナミメダカ東瀬戸内集団
ミナミメダカ東日本集団
アカメ
イドミミズハゼ
チワラスボ (チワラスボ B 種)
コガネチワラスボ
トビハゼ
オオヨシノボリ

● 準絶滅危惧 (NT)

オオウナギ
ズナガニゴイ
ギギ
ドンコ
アマハゼ
コマハゼ
ダイダイイソミミズハゼ
オオミミズハゼ
ヒモハゼ
マサゴハゼ
ゴマハゼ
ルリヨシノボリ
ウキゴリ
チクゼンハゼ
イトヒゲモジャハゼ

● 情報不足 (DD)

ホシキカイウツボ
シロヒレタビラ
ニッポンバラタナゴ
カワバタモロコ
カマツカ
ナガレカマツカ
ドジョウ
アユ
カワヨウジ
イッセンヨウジ
テングヨウジ
ワニグチボラ
フウライボラ
オニボラ
カマヒレボラ
ナンヨウボラ

モンナシボラ
チャイロマルハタ
ナンセンハゼ
ナガミミズハゼ
ミズヒキナガミミズハゼ
イチモンジミミズハゼ
ヤリミミズハゼ
ハウチワヤリミミズハゼ
カマヒレミミズハゼ
アカウオ
ヒゲワラスボ種群
ニクハゼ
ビリンゴ
シラスウオ属の一種

●学術的重要 (SI)

アブラハヤ
オオシマドジョウ
オカメハゼ
テンジクカワアナゴ
シマヒレヨシノボリ

ヤマトイワナ (キリクチ) *Salvelinus leucomaenis japonicus* Oshima, 1961 サケ目 サケ科

| | | | | | | |
|--------|---------|----|------|---------|---|---------------------|
| 県カテゴリー | 絶滅 (EX) | 旧県 | 2012 | 絶滅 (EX) | 国 | 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) |
|--------|---------|----|------|---------|---|---------------------|

紀伊半島のみ分布するヤマトイワナの地域個体群。眼及びその周辺が黒ずみ、尾鰭の基部が明るい色相を呈すること、側線部が全体的に暗紅色を帯びる個体が多いことが特徴。



現在では奈良県の熊野川水系のみでまとまった個体数が確認されており、その生息地は奈良県の

天然記念物として保護されている。和歌山県内では日高川水系小森谷での生息が知られていたが、1953年の水害以来生息数が激減し、1960年代以降の正確な生息情報はなかった。その後、小森谷では他の水系からの移入や交雑個体群の移入が行われたため、純粋な在来のキリクチは失われたと考えられる。

選定理由

今日に至るまで、この地域からキリクチの特徴を持つイワナ類が散発的に捕獲されている。また、和歌山県内の他水系からもイワナ類が確認されているが、これらがそれぞれの水系に在来の個体であるか否かは明らかになっていない。

このため、今回の改訂においても、カテゴリーは絶滅 (EX) のままとした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献・情報

- 1 岩槻幸雄・関 伸吾・山本彰徳・森澤友博・稲野俊直・斉藤裕也・平嶋健太郎. 2020. 和歌山県における過去のイワナ (キリクチ) の自然分布の聞き込み調査, イワナの移入の実態, およびキリクチの背部の白斑について. Nature of Kagoshima, 46: 467-480.
- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 佐藤拓哉提供 (県外産)

アオギス *Sillago parvisquamis* Gill, 1861 スズキ目 キス科

| | | | | | | |
|--------|---------|----|------|--------------------|---|-----------------|
| 県カテゴリー | 絶滅 (EX) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) | 国 | 絶滅危惧 I A 類 (CR) |
|--------|---------|----|------|--------------------|---|-----------------|

アオギスはキス科に属し、第2背鰭に明瞭な小黒点列があること、生時に腹鰭と臀鰭の起部が黄色いこと等の特徴を持つ。



国内では東京湾、伊勢湾、紀伊水道、豊後水道、鹿児島県に分布していたが、前浜干潟の消失、生息環境の悪化等により各地で個体数が激減した。現在、まとまった個体群が確認されているのは福岡県、大分県の豊前海、山口県の周防灘周辺のみである。

選定理由

和歌山県内では、かつて和歌浦湾や田辺湾等に生息していたが、1972年に田辺湾で採捕された標本を最後に、およそ50年間記録がなく、現在では絶滅したと考えられる。

執筆者 (揖 善継)

参考文献・情報

- 1 平嶋健太郎. 2005. 和歌山にもいたアオギス. 和歌山県立自然博物館だより 23 (3): 4.
- 2 平嶋健太郎. 2006. 和歌山県水産試験場から寄贈された魚類標本. 和歌山県立自然博物館館報, 24: 39-44.
- 3 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

カジカ *Cottus pollux* Günther, 1873 スズキ目 カジカ科

| | | | | | | |
|--------|---------|----|------|---|---|------------|
| 県カテゴリー | 絶滅 (EX) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |
|--------|---------|----|------|---|---|------------|

かつてはカジカ大卵型と呼ばれ、卵径は2.6~3.7 mm 程である。仔魚が海まで下りず、全ての生活史を純淡水域で送る。最大体長15 cm 程になる。ウツセミカジカやカジカ中卵型と似るが、胸鰭軟条数(本種は12~14)等で区別可能。河川の中・上流に生息し、河床の浮石下部のすき間



選定理由 に産卵床を作る。

現在でも吉野川上流域では生息が確認されており、その下流にあたる紀の川においてもかつては生息したとされるが、正式な記録はなく、標本も見つかっていない。そのため、紀の川においては既に絶滅したとみなした。

絶滅の詳しい原因は不明だが、人為的活動に伴う水質汚濁や産卵床となる礫底の減少といった生息環境の消失及び劣化の影響と推察される。

執筆者 (國島大河)

**参考文献
・情報**

- 1 揖 善継・平嶋健太郎. 2010. 和歌山県立伊都高等学校より寄贈された魚類標本目録. 和歌山県立自然博物館館報, 28 : 68-77.
- 2 牧 岩男. 1987. 紀伊半島の自然史- 19 - 紀の川の魚類. 和歌山県立自然博物館だより, 5 (3) : 2.
- 3 牧 岩男. 1987. 紀伊半島の自然史- 20 - 紀の川の魚類 (2). 和歌山県立自然博物館だより, 5 (4) : 2.
- 4 水野信彦. 1963. カジカとヨシノボリの分布とくに陸封と分化の特異性に関連して. 大阪学芸大学紀要, 11 : 129-161.
- 5 水野信彦・丹羽 弥. 1961. カジカ *Cottus pollux* Günther の生態的2型. 動物学雑誌, 70 (8) : 267-275.
- 6 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11 : 33-60.
- 7 田辺知子. 1970. 吉野川の魚類と食性. 奈良陸水生物学報, 3 : 7-9.
- 8 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
- 9 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

スナヤツメ (南方種) *Lethenteron* sp. S. ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科

| | | | | | | |
|--------|--------------------|----|------|--------------------|---|----------------|
| 県カテゴリー | 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) | 国 | 絶滅危惧 II 類 (VU) |
|--------|--------------------|----|------|--------------------|---|----------------|

顎を持たない極めて原始的な脊椎動物。アンモシーテス幼生は眼が皮下に埋没し、口が漏斗状をなし、泥中の有機物等を摂餌する。変態後は餌を採らず、春に砂礫底で集団産卵し、その後死亡する。



選定理由 本州、四国、九州に分布し、和歌山県内では紀の川、日高川、古座川、熊野川の各水系で確認されている。県内の分布は局地的で、河川改修や農薬の流入等による生息環境の悪化によって生息個体数の著しい減少が危惧されている。

形態的に酷似するが、遺伝的に分化したスナヤツメ北方種があり、古座川への移入が確認されている。また、放流アユへの混入により、他地域のスナヤツメ南方種が県内の河川へ移入していることも確認されており、遺伝的多様性に配慮した保全策が求められる。

執筆者 (揖 善継)

**参考文献
・情報**

- 1 東山憲行. 1995. 紀ノ川支流貴志川においてスナヤツメのアンモシーテス幼生を採集. 南紀生物, 37 (1) : 79-81.
- 2 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所. 2007. 古座川合同調査報告書第1巻. 189pp. 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所, 串本.

参考文献
・情報

- 3 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所. 2008. 古座川合同調査報告書第2巻. 146pp. 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所, 申本.
 - 4 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所. 2009. 古座川合同調査報告書第3巻. 241pp. 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所, 申本.
 - 5 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史- 22 - 紀の川の魚類 (4). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (2) : 2.
 - 6 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 7 玉田一晃. 1992. 新宮川でスナヤツメを採集. 南紀生物, 34 (2) : 97-98.
 - 8 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
 - 9 和歌山県環境生活部 編. 2019. 和歌山県の外来種リスト. 89pp. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
 - 10 Yamazaki, Y. & Goto, A. 1996. Genetic differentiation of *Lethenteron reissneri* populations, with reference to the existence of discrete taxonomic entities. Ichthyological Research, 43 (3) : 283-299.
- 写真：平嶋健太郎提供（アンモシーテス幼生）

| | | | | | | |
|---|------------------|----|------|-------------|---|------------|
| ヤリタナゴ <i>Tanakia lanceolata</i> (Temminck & Schlegel, 1846) コイ目 コイ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |

魚
類

タナゴ類の中では体高が低く、細長い印象を持つ。比較的長い口髭を持ち、背鰭の鰭条間にアブラボテ属の特徴である紡錘型の黒色斑が見られる。流れの緩やかな水路や平野部の河川に生息する。繁殖期の3月から8月頃にメスは20 mm 前後の産卵管を伸ばし、マツカサガイ等の流水性の二枚貝に産卵する。



選定理由

日本産のタナゴの仲間としては最も広域に分布し、北海道、南九州を除く各地にみられる。和歌山県においては紀の川水系、有田川水系等に生息しているが、河川改修、外来魚による食害や産卵母貝をめぐる競争等によって、各地で生息が危ぶまれている。

近年、ミトコンドリア DNA の解析により、地域ごとに異なる特徴を持つことが示されたが、紀の川水系の個体群については、国内の別の生息地域から持ち込まれた同種による遺伝的攪乱が示唆されているため、和歌山県の他地域の個体群についても精査が必要である。

執筆者（山田大貴）

参考文献
・情報

- 1 Kitamura, J. 2007. Reproductive ecology and host utilization of four sympatric bitterling (*Acheilognathus*, Cyprinidae) in a lowland reach of the Harai River in Mie, Japan. Environmental Biology of Fishes, 78 : 37-55.
 - 2 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史- 20 - 紀の川の魚類 (4). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (2) : 2.
 - 3 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11 : 33-60.
 - 4 佐土哲也. 2011. タナゴハンドブック. 80pp. 文一総合出版, 東京.
 - 5 Tominaga, K., Nagata, N., Kitamura, J., Watanabe, K. & Sota, T. 2020. Phylogeography of the bitterling *Tanakia lanceolata* (Teleostei : Cyprinidae) in Japan inferred from mitochondrial cytochrome *b* gene sequences. Ichthyological Research, 67 : 105-116.
 - 6 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
 - 7 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：中谷義信提供

アブラボテ *Tanakia limbata* (Temminck & Schlegel, 1846) コイ目 コイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 準絶滅危惧 (NT)

選定理由

和歌山県の個体群は本州南限にあたると考えられる。産卵期は3月から8月頃まで続き、メスは20 mm 前後の産卵管を伸ばし、流水性の二枚貝に産卵する。婚姻色を帯びたオスの体色は、重油色をベースに紫、青等の色が混ざり、腹部と腹鰭は黒くなり、臀鰭は橙色を基調として二本の黒いラインが走る。和歌山県のアブラボテは、主にマツカサガイを母貝としており、同所的に生息するタイリクバラタナゴはドブガイ類を母貝としているため、産卵母貝をめぐる競争はないものと思われる。和歌山県の個体群は、DNA が四国の個体群に近いという情報がある。



濃尾平野以西の本州、瀬戸内海流入河川、四国、九州に分布。河川だけでなく、用水路等にも生息している。

和歌山県では2河川から記録されているが、うち1河川では近年の記録がなく、絶滅したものと思われる。残存する1河川も産卵母貝の生息する地点は非常に限られており、現在も圃場整備や宅地化が進行している地域にあるため、生息基盤が極めて脆弱である。

執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 海南市史編さん委員会. 1990. 海南市史 第2巻 各説編, 1027pp. 海南.
- 2 奈良県教育委員会. 1954. 奈良県総合文化調査報告書 吉野川流域. 442pp. 奈良.
写真: 平嶋健太郎提供

イチモンジタナゴ *Acheilognathus cyanostigma* Jordan & Fowler, 1903 コイ目 コイ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 絶滅危惧 I A 類 (CR)

選定理由

タナゴ類の中でも著しく体高が低く、鰓蓋のやや後方から尾柄部にかけて、1本の青緑色の縦条が伸びる。



ワンドや溜池等、流れの緩やかな場所に生息し、ドブガイ類に産卵する。繁殖期は3月下旬から7月頃で、産卵管の長さは30 mm 前後。

和歌山県では紀の川や有田川等から記録がある。インターネット上の情報等で、近年、和歌山県内で採取したとの情報があるが、詳細は不明。本種と同じ環境を好む外来種のオオクチバスによる食害の被害が大きい。この他、河川改修や溜池の放置等による産卵母貝であるドブガイ類の生息環境の悪化もあり、極めて危機的な状況である。

執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類 I - 下流域を中心にして -. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
- 2 Kitamura, J. 2006. Reproductive ecology of the striped bitterling *Acheilognathus cyanostigma* (Cyprinidae : Acheilognathinae). Ichthyological Research, 53 : 216-222.
- 3 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11 : 33-60.
- 4 佐土哲也. 2011. タナゴハンドブック. 80pp. 文一総合出版, 東京.
- 5 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
- 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック -. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供 (県外産)

| | | | | | | |
|--------|--|-----|------|------------------|---|---|
| カネヒラ | <i>Acheilognathus rhombeus</i> (Temminck & Schlegel, 1846) | コイ目 | コイ科 | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 国 | - |

選定理由

日本最大のタナゴの一種で、15 cm 程になる。7月から11月に流水性の二枚貝に産卵する。濃尾平野以西の本州、九州北部、四国北東部に見られるが、大きな水域を好むため、分布は不連続である。和歌山県では紀の川水系や亀の川水系、和田川水系から記録がある。湖やワンド等、比較的流れの緩やかな場所に生息する種であるが、遊泳力があり、状況に合わせて河川本流と水路との間を活発に回遊する。



県内では、河川と水路が断絶されている地域が多いことや、河川本流では産卵母貝の好適な生息環境が失われていることに加え、生息環境がオオクチバスと一致することもあり、生息状況は極めて危機的である。

執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類Ⅰー下流域を中心にしてー. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
 - 2 Kitamura, J. 2006. Reproductive ecology of the striped bitterling *Acheilognathus cyanostigma* (Cyprinidae : Acheilognathinae). Ichthyological Research, 53 : 216-222.
 - 3 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史ー 22ー紀の川の魚類 (4). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (2) : 2.
 - 4 佐土哲也. 2011. タナゴハンドブック. 80pp. 文一総合出版, 東京.
 - 5 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
 - 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：中谷義信提供

| | | | | | | |
|---------------|--|-----|-------|---|---|-------------|
| チュウガタスジシマドジョウ | <i>Cobitis striata striata</i> Ikeda, 1936 | コイ目 | ドジョウ科 | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

選定理由

和歌山県に分布する在来のシマドジョウ属2種のうちの1種。他方のオオシマドジョウとは同所的に生息するが、本種はオスの骨質盤が円形であること、シマドジョウ属に特徴的な5列の体側斑紋のうち、2列が縦条であること等から区別できる。標準体長は6~9 cm。



河川の中・上流域や河川に付随する農業用水路に生息し、流れのある砂礫底を好む。県内では、かつて紀の川水系に広く分布していたと考えられるが、近年は河川改修等によって本種の生息環境が減少しており、現在の生息地も局所的になっている。なお、近年、紀の川水系において新たな生息地が記録されているが、これらの個体群が在来のものであるか精査する必要がある。

従来、スジシマドジョウ中型種とされていたが、2012年に正式に学名と和名が与えられた。

執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類Ⅰー下流域を中心にしてー. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
 - 2 中島 淳・内山りゅう. 2017. 日本のドジョウ. pp223. 山と溪谷社, 東京.
 - 3 Nakajima, J. 2012. Taxonomic study of the *Cobitis striata* complex (Cypriniformes, Cobitidae) in Japan. Zootaxa, 3586 : 103-130.
 - 4 中島 淳. 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59 (1) : 86-95.
 - 5 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史ー 23ー紀の川の魚類 (5). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (3) : 2.
 - 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：國島大河提供

ナガレホトケドジョウ *Lefua torrentis* Hosoya, Ito & Miyazaki, 2018 コイ目 ドジョウ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 絶滅危惧 I B 類 (EN)

4対8本のひげを持ち、体は太短い円筒形。和歌山県・福井県から岡山県までの本州と高知県以外の四国で生息が確認されている。遺伝的にいくつかの集団に分けられ、和歌山県の個体群は紀伊-四国集団と呼ばれる。



選定理由

和歌山県内では河川上流域の支流や細流において、特に水深の浅い砂礫底に生息する。一般的に本種の体表は無斑であるが、和歌山県内では全身に暗色斑の見える個体群が紀北から紀中にかけて確認されている。森林伐採や砂防ダムの建築などの人為的活動の影響を受け、生息地の減少や劣化、分断が生じている。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- Hosoya, K., Ito, T. & Miyazaki, J. 2018. *Lefua torrentis*, a new species of loach from western Japan (Teleostei : Nemacheilidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 1078 : 1-9.
- Miyazaki, J., Nakao, K., Mihara, M., Sakai, T., Gunji, Y., Tojo, K. & Muraoka, K. 2007. Incongruence between mtDNA phylogeny and morphological and ecological characters in loaches of the genus *Lefua* (Balitoridae, Cypriniformes). Zoological Science, 24 : 666-675.
- 中谷義信・吉田 誠. 1994. 和歌山県におけるナガレホトケドジョウの分布現況 (2). 和歌山県立自然博物館館報, 12 : 27-30.
- 奈良県. 2017. 大切にしたい奈良県の野生動植物-奈良県版レッドデータブック- 2016 改訂版. 791pp. 奈良県くらし創造部景観・環境局景観・自然環境課, 奈良.
- 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河撮影

サツキマス (アマゴ) *Oncorhynchus masou ishikawae* Jordan & McGregor, 1925 サケ目 サケ科

県カテゴリー 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧 I 類 (CR + EN) 国 準絶滅危惧 (NT)

和歌山県在来の個体群として、明らかな証拠がある生息地は、日高川水系の1箇所のみである。



選定理由

在来個体群は、近年の山林の荒廃による土砂の流入と他地域の個体群の放流等によって脅かされている。

サツキマスは和歌山県内のいくつかの河川で遡上が見られ、産卵も確認されている。その一方で、釣り餌として利用された養殖アマゴが海洋に投棄されたり、逸脱して、河川に遡上したものも見られる。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 池田博美. 1995. 和歌山県下で初記録のサツキマス. 南紀生物, 37 (1) : 81.
- 久保喜計・細谷和海. 2007. 和歌山市磯ノ浦沖合で漁獲されたアマゴ. 近畿大学農学部紀要, 40 : 81-83.
写真: 平嶋健太郎撮影

| | |
|--|---|
| カマキリ (アユカケ) <i>Rheopresbe kazika</i> (Jordan & Starks, 1904) スズキ目 カジカ科 | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 旧県 2012 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

前鰓蓋骨には4本の棘があり、最上棘が上方に強く曲がるのが特徴。本州、四国、九州に分布する日本固有種である。標本や文献記録から、本種はかつて紀北地域を含む県内に広く分布していたと考えられるが、現在の分布は日高川以南の地域に限られており、分布域が著しく縮小している。



選定理由

本種は、冬季に河口付近の沿岸で産卵を行う降河回遊魚であり、降河するオスは口内が橙色に変化する。春～夏季に稚魚が河川を遡上するが、遡上能力は低く、高低差がわずかでもあると遡上できなくなるため、堰やダムのない河川の中・下流域の礫底に見られる。

河川内の移動を妨げる人工構造物の増加、底面護岸や浚渫による河床礫底や浮石環境の減少、海域でのアユ漁に伴う仔稚魚の混獲等による個体数の減少が懸念される。

執筆者 (國島大河)

魚類

参考文献・情報

- Goto, A. 1990. Alternative life-history styles of Japanese sculpins revisited. *Environmental Biology of Fishes*, 28 : 101-112.
- Goto, A., Yokoyama, R., Kinoshita, I. & Sakai, H. 2020. Japanese catadromous fourspine sculpin, *Rheopresbe kazika* (Jordan & Starks) (Pisces : Cottidae), transferred from the genus *Cottus*. *Environmental Biology of Fishes*, 103 : 213-220.
- 揖 善継・平嶋健太郎. 2010. 和歌山県立伊都高等学校より寄贈された魚類標本目録. 和歌山県立自然博物館館報, 28 : 68-77.
- 國島大河・揖 善継. 2020. 和歌山県周参見川で採集されたカマキリ (アユカケ). 南紀生物, 62 (1) : 26-28.
- 牧 岩男. 1987. 紀伊半島の自然史- 19 - 紀の川の魚類. 和歌山県立自然博物館だより, 5 (3) : 2.
- 三輪一翔. 2008. 古座川河口およびその周辺海域における特別採捕許可申請の記録 添付資料 in 梅本信也 編 古座川合同調査報告書 第2巻. p. 40-46. 京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所, 申本.
- 水野信彦・丹羽 弥. 1961. カジカ *Cottus pollux* Günther の生態的2型. *動物学雑誌*, 70 (8) : 267-275.
- 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11 : 33-60.
- 杉山秀樹. 2014. カマキリ (アユカケ) in 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 編. Red Data Book 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 汽水・淡水魚類, p. 298-299. ぎょうせい, 東京.
- 竹下直彦・鬼倉徳雄・松井誠一・木村清朗. 2014. 降河回遊型カジカ科魚類ヤマノカミとカマキリの初期生活史の比較. *水産大学校研究報告*, 52 (3) : 83-92.
- 田原大輔・青木治男・中村圭吾. 2019. 九頭竜川におけるアラレガコ (カマキリ) の保全・再生に向けて. *応用生態工学*, 22 (1) : 1-17.
- 玉田一晃. 1993. 富田川の魚類相. 南紀生物, 35 (2) : 125-132
- 玉田一晃. 1995. 会津川の魚類相. 南紀生物, 37 (1) : 8-14.
- 玉田一晃. 1998. 周参見川の魚類相. 南紀生物, 40 (2) : 167-170.
- 内山りゅう. 2007. 和歌山県南部地方の河川感潮域で見つけたアユカケの卵塊. *兵庫陸水生物*, 59 : 129-132
- 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
- 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.

写真：國島大河撮影

ウツセミカジカ *Cottus reinii* Hilgendorf, 1879 スズキ目 カジカ科

| | | | | | | |
|--------|------------------|----|------|-------------|---|--------------|
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧ⅠB類 (EN) |
|--------|------------------|----|------|-------------|---|--------------|

北海道南部、本州、四国、九州北西部の太平洋側の河川に分布する日本固有種。産卵は冬から初春に河川の瀬にある転石下で行われ、孵化した仔魚が海へ流下後、春から初夏にかけて河川を遡上する両側回遊型の生活史を送る。本種は、類似するカジカ *Cottus pollux* (かつての大卵型) やカジカ中卵型と比べて、胸鰭軟条数が 13~17 本と多いことが特徴。



選定理由

かつては和歌山県内に広く分布していたと考えられるが、紀の川や有田川水系等の紀北・紀中地方では、本種の生息が 30 年以上確認されておらず、生息環境の悪化によって分布の縮小が生じている。

ダムや河口堰の建設による海域と河川の分断化、河口域での浚渫や河川改修が減少の理由として挙げられる。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 揖 善継・平嶋健太郎. 2010. 和歌山県立伊都高等学校より寄贈された魚類標本目録. 和歌山県立自然博物館館報, 28: 68-77.
- 2 水野信彦. 1963. カジカとヨシノボリの分布とくに陸封と分化の特異性に関連して. 大阪学芸大学紀要, 11: 129-161.
- 3 水野信彦・丹羽 弥. 1961. カジカ *Cottus pollux* Günther の生態的 2 型. 動物学雑誌, 70 (8): 267-275.
- 4 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11: 33-60.
- 5 田辺知子. 1970. 吉野川の魚類と食性. 奈良陸水生物学報, 3: 7-9.
- 6 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
- 7 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河撮影 (県外産)

ユウスイミズハゼ *Luciogobius fonticola* Kanagawa, Itai & Senou, 2011 スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------------|----|------|---|---|------------|
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |
|--------|------------------|----|------|---|---|------------|

和歌山県南部古座川の河口域から確認されている。

生息域は、地下からの湧水が豊富な場所に限られ、普段は地下水中で生活していると考えられる両側回遊性魚類。全国でも静岡県 (2 河川)、三重県 (1 河川)、徳島県 (1 河川) が知られるのみ。



選定理由

近年、和歌山県内唯一の生息地が河川改修等によって攪乱され、本種の生息が極めて危ぶまれている。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2020. 紀州の鯨 77 ユウスイミズハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 38 (3): 8.
- 2 平嶋健太郎・富川 光・平井厚志・内山りゅう・田上 至・川本康司・松野茂富. 2019. 古座川から採集されたユウスイミズハゼ (脊索動物門: ハゼ科) の記録. 南紀生物, 61 (2): 136-138.
- 3 井藤大樹・乾 隆帝・奥村大輝. 2020. 徳島県海部川から得られた地下水性ミズハゼ属 (Perciformes: Gobiidae) の形態と生息環境. 日本生物地理学会誌, 75, 18-24.
- 4 Kanagawa, N., Itai, T. & Senou, H. 2011. Two new species of freshwater gobies of the genus *Luciogobius* (Perciformes: Gobiidae) from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum. (Natural Science), 40: 67-74.

参考文献
・情報

- 5 金川直幸・川嶋尚正・國領康弘・板井隆彦・渋川浩一. 2020. 伏流水性ミミズハゼ属魚類ナガレミミズハゼとユウスイミミズハゼの生活史—飼育下における仔稚魚の外部形態の変化を中心として—. 東海自然誌, 13: 65-78.
写真: 平嶋健太郎撮影

| | | | | | | |
|--------|---|------|------|-------------|---|-------------|
| シロウオ | <i>Leucopsarion petersii</i> Hilgendorf, 1880 | スズキ目 | ハゼ科 | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

穏やかな内湾環境で成長し、春季に河川へ遡上後に産卵して死亡する、全身が無色透明の遡河回遊魚である。本種は古くから春の風物詩とされ、和歌山県内では湯浅町、広川町、那智勝浦町等で四手網を用いた漁業が行われている。



選定理由

産卵床は河口域に多く、伏流水の多い河川を好み遡上する。海域では藻場や漁港内で群れを作って暮らすが、和歌山県内での情報は乏しい。日本海側と太平洋側では遺伝的、形態学的に異なることが知られる。

生息環境である良好な内湾環境が埋め立てや護岸工事によって消失している。また、本種の生息地では、河川改修や水質汚濁によって河口域の産卵床となる砂礫底の底質変化が生じており、産卵場や産卵個体数の減少も懸念される。

なお、和歌山県内でシラウオ *Salangichthys microdon* が採集されたことがあるという情報があるが、標本や写真などの確かな記録がなく、シロウオを誤同定したものと考えられる。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2000. 紀州の鯨 1 シロウオ. 和歌山県立自然博物館だより, 18 (2) : 8.
2 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19 : 33-40.
3 平嶋健太郎・丸山秀人. 2012. 和歌川河口干潟の魚類相. 南紀生物, 54 (1) : 24-30.
4 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ: <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
5 瀬能 宏・北村利幸. 1982. 加茂川干潮域の魚類Ⅰ. 南紀生物, 24 (1) : 12-18.
6 玉田一晃. 1993. 富田川の魚類相. 南紀生物, 35 (2) : 125-132.
7 玉田一晃. 1995. 会津川の魚類相. 南紀生物, 37 (1) : 8-14.
8 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック—. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河撮影

| | | | | | | |
|--------|--|------|------|------------------|---|-------------|
| タビラクチ | <i>Apocryptodon punctatus</i> Tomiyama, 1934 | スズキ目 | ハゼ科 | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

主に西日本の河口や内湾に形成される軟泥底の干潟に分布する。目は背面に位置し口が大きく、カエルのような風貌をしている。



選定理由

和歌山県における本種の生息は局所的であり、なおかつ、その個体数は多くない。本県での産卵期は不明だが、有明海では5~7月と推定されている。本種とテッポウエビ類との共生が示唆されており、宿主の生息も本種の重要な生息条件となる。

本種の減少の原因としては、干潟の埋め立てや河口域での浚渫、河口堰の建設による生息地の劣化及び消滅、河川改修に伴う河道の直線化や河床の平坦化、水質の悪化が挙げられる。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類Ⅰー下流域を中心にしてー. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
- 2 道津喜衛. 1961. タビラクチの生態・生活史. 長崎大学水産学部研究報告, 10 : 133-139.
- 3 藤田昂己. 2006. 紀ノ川大堰周辺で確認できた生物. くろしお, 25 : 22.
- 4 平嶋健太郎. 2004. 紀州の鯊 13 タビラクチ. 和歌山県立自然博物館だより, 22 (1) : 8.
- 5 平嶋健太郎. 2012. 和歌川河口干潟の魚類相. 南紀生物, 54 (1) : 24-30.
- 6 乾 隆帝・小山彰彦. 2014. シリーズ・日本の希少魚類の現状と課題 本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類. 魚類学雑誌, 61 (2) : 105-109.
- 7 岸野 底・野本彰人. 2000. 和歌山県有田川で採集されたタビラクチ (ハゼ科). 南紀生物, 42 (2), 143-144.
- 8 Koyama, A., Inui, R., Iyooka, H., Akamatsu, Y. & Onikura, N. 2015. Habitat suitability of eight threatened gobies inhabiting tidal flats in temperate estuaries : model developments in the estuary of the Kuma River in Kyushu Island, Japan. Ichthyological Research, 63 : 307-314.
- 9 Koyama, A., Inui, R., Sawa, K. & Onikura, N. 2016. Symbiotic partner specificity and dependency of two gobies (*Apocryptodon punctatus* and *Acentrogobius* sp. A) and four alpheid shrimps inhabiting the temperate estuary of southern Japan. Ichthyological Research, 64 : 131-138.
- 10 國島大河. 2021. 和歌山市内から得られたタビラクチ. 和歌山県立自然博物館館報, 39, 49-53.
- 11 牧 岩男. 1987. 紀伊半島の自然史ー 19ー紀の川の魚類. 和歌山県立自然博物館だより, 5 (3) : 2.
- 12 松井彰子・上野正博・甲斐嘉晃・山下 洋. 2011. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. 魚類学雑誌, 58 (2) : 209-211.
- 13 Murase, A., Inui, R., Miki, R. & Miyazaki, Y. 2017. Revising the distribution of a threatened goby, *Apocryptodon punctatus* (Perciformes, Oxudercidae), in Japan with the discovery of an isolated population. ZooKeys, 645 : 71-83.
- 14 佐藤陽一・藍澤正宏. 1992. 徳島県吉野川河口から採集されたタビラクチとその分布. 徳島県立博物館研究報告, (2) : 43-50.
- 15 瀬能 宏・北村利幸. 1982. 加茂川干潮域の魚類Ⅰ. 南紀生物, 24 (1) : 12-18.
- 16 鈴木寿之・和田恵次, 1999. 和歌山県田辺市内之浦で採集されたタビラクチ (ハゼ科). 南紀生物, 41 (1) : 61-63.
- 17 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真：國島大河撮影

クボハゼ *Gymnogobius scrobiculatus* (Takagi, 1957) スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------------|----|------|-------------|---|--------------|
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧ⅠB類 (EN) |
|--------|------------------|----|------|-------------|---|--------------|

三重県から宮崎県までの太平洋及び瀬戸内海、福井県から鹿児島県にかけての日本海および東シナ海に分布する。



アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴が数多く見られるような河口域や内湾の砂礫底や泥礫底に生息する。本種の体は細長く、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に入り込むのに適した体形をしている。春頃には繁殖期を迎え腹部が青くなり、アナジャコ類の巣穴を利用して産卵すると考えられている。チクゼンハゼと似るが、顎の下にひげ状の突起がないことで区別できる。

選定理由

和歌山県内では安定した汽水環境に見られるが、個体数は少ない。近年、良好な内湾環境や河口域が減少し、生息環境が悪化している。

なお、近畿地方の太平洋側では和歌山県の個体群が最大と思われる。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 道津喜衛. 1961. クボハゼの生態・生活史. 長崎大学水産学物研究報告, 10 : 127-131.
- 2 橋本健一・内山りゅう. 2006. 三重県で採集されたクボハゼ (ハゼ科魚類). 南紀生物, 48 (2), 105-108.
- 3 邊見由美・岩田洋輔・伊谷 行. 2014. ヒモハゼとクボハゼによる干潮時のヨコヤアナジャコの巣穴利用. 日本ベントス学会誌, 69 (2) : 69-75.

参考文献
・情報

- 4 平嶋健太郎. 2011. 紀州の鯊 39 クボハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 29 (2) : 8.
- 5 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし瀨の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19 : 33-40.
- 6 乾 隆帝・小山彰彦. 2014. 本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類. 魚類学雑誌, 61 (2) : 105-109.
- 7 Inui, R., Koyama, A. & Akamatsu, Y. 2018. Abiotic and biotic factors influence the habitat use of four species of *Gymnogobius* (Gobiidae) in riverine estuaries in the Seto Inland Sea. Ichthyological Research, 65 (1) : 1-11.
- 8 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ : <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
- 9 Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes : Perciformes : Gobiidae), with the description of new species. Species Diversity, 7 : 251-312.
- 10 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 11 玉田一晃. 1993. 富田川の魚類相. 南紀生物, 35 (2) : 125-132.
- 12 玉田一晃. 1993. 日高川の魚類およびチチブ属魚類2種の種間関係. くろしお, 12 : 51-53.
- 13 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真 : 國島大河撮影

魚
類

| | | | | | |
|--------|---|----|------|-------------|---------------|
| エドハゼ | <i>Gymnogobius macrognathos</i> (Bleeker, 1860) | | | スズキ目 | ハゼ科 |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

選定理由

瀬戸内海及び本州、九州等の太平洋や日本海及び東シナ海沿岸に分布する。和歌山県における本種の確認例は近年乏しく、同様の環境に生息するチクゼンハゼやクボハゼと比べても個体数は少ないと考えられる。

体は細長く、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に入り込むのに適した体形をしている。チクゼンハゼと似るが、顎の下にひげ状の突起がないことで区別できる。クボハゼとは体側の腹側に褐色縦帯がないことや尾鰭下部の軟条に黒点列がないことで区別できる。

本種の減少の原因としては、干潟や汽水域での浚渫や埋め立て、護岸工事に伴う生息地の劣化及び消滅、河川改修に伴う河道の直線化や河床の平坦化、水質の悪化が挙げられる。

執筆者 (國島大河)



参考文献
・情報

- 1 Henmi, Y., Eguchi, K., Inui, R., Nakajima, J., Onikura, N. & Itani, G. 2017. Field survey and resin casting of *Gymnogobius macrognathos* spawning nests in the Tataru River, Fukuoka Prefecture, Japan. Ichthyological Research, 65 (1) : 168-171.
- 2 平嶋健太郎. 2014. 紀州の鯊 50 エドハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 32 (1) : 6.
- 3 乾 隆帝・小山彰彦. 2014. 本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類. 魚類学雑誌, 61 (2) : 105-109.
- 4 Inui, R., Koyama, A. & Akamatsu, Y. 2018. Abiotic and biotic factors influence the habitat use of four species of *Gymnogobius* (Gobiidae) in riverine estuaries in the Seto Inland Sea. Ichthyological Research, 65 (1) : 1-11.
- 5 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ : <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
- 6 Koyama, A., Inui, R., Umemura, K., Wakabayashi, M., Kanno K. & Onikura, N. 2017. The first record of the spawning nest of *Gymnogobius cylindricus* and *Gymnogobius macrognathos*. Ichthyological Research, 64 (2) : 261-263.
- 7 Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes : Perciformes : Gobiidae), with the description of new species. Species Diversity, 7 : 251-312.
- 8 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 9 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真 : 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|--------|--|-----|------|------------|---|---|
| イトモロコ | <i>Squalidus gracilis gracilis</i> (Temminck & Schlegel, 1846) | コイ目 | コイ科 | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | — |

和歌山県に分布する在来のスゴモロコ属 2 種のうち 1 種。スゴモロコ属魚類の中では最も小さく、成魚の標準体長は 6~8 cm 程。側線鱗が上下の鱗より小さく、体側中央に暗色の縦帯が 1 列ある。本種は、国内での移入が確認され



選定理由

和歌山県内では紀の川水系、亀の川水系、古座川水系、熊野川水系から記録があるが、古座川水系と熊野川水系での詳細は不明。

本種が生息する中流域では宅地化、河川改修等により好適環境が失われつつある。特に、亀の川水系では宅地が河川本流に近く、河川改修の影響を受けやすいためか、年々生息数が減少している。

執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 細谷和海・内山りゅう. 2015. 山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚. 527pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 海南市史編さん委員会. 1990. 海南市史 第 2 巻 各説編. 1027pp. 海南.
- 3 牧 岩男・坂本泰造. 1993. 紀の川に生息するスゴモロコ属 (*Squalidus*) の形態および分布. 南紀生物, 35 (1) : 1-8.
- 4 日本の淡水魚. 建設省河川局河川環境課. 1998. 平成 8 年度 (BOOK & CD-ROM) 河川水辺の国勢調査年鑑 (河川版) 魚介類調査. 底生動物調査編. 71pp. 山海堂, 東京.
- 5 日本の淡水魚. 建設省河川局河川環境課. 1999. 平成 9 年度 (BOOK & CD-ROM) 河川水辺の国勢調査年鑑 (河川版) 魚介類調査. 底生動物調査編. 73pp. 山海堂, 東京.
- 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|--------|--|------|------|-------------|---|-------------|
| アカザ | <i>Liobagrus reinii</i> Hilgendorf, 1878 | ナマズ目 | アカザ科 | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

流れがあり、水の綺麗な河川に生息するナマズの仲間で、和歌山県では紀の川、有田川、広川、熊野川等の各水系から記録がある。日本固有種。標準体長は 10 cm 程で、日中は大きな浮石の下に隠れ、夜間に餌を探す夜行性。全体的に赤みがかっており、尾鰭は円形で切れ込みがない。背鰭と胸鰭に棘があり、刺されると痛む。河川本流だけでなく、支流河川にも遡上するため、砂防ダム建設による生息地の分断の影響が大きく、他にも河川改修による浮石の減少等も個体数の減少の要因になっている。



選定理由

なお、近年の遺伝学的な研究によると、アカザは 2 つのクレードに分かれ、和歌山県のはクレード 1 に含まれる。

執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類 I - 下流域を中心にして -. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
- 2 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史 - 21 - 紀の川の魚類 (3). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (1) : 2.
- 3 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史 - 23 - 紀の川の魚類 (5). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (3) : 2.
- 4 Nakagawa, H., Seki, S., Ishikawa, T. & Watanabe, K. 2016. Genetic population structure of the Japanese torrent catfish *Liobagrus reinii* (Amblycipitidae) inferred from mitochondrial cytochrome *b* variations. Ichthyological Research, 63 : 333-346.
- 5 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11 : 33-60.
- 6 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.

参考文献
・情報

7 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック—. 442pp.
和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河提供

| | | | | | | |
|--|-------------|----|------|-------------|---|-------------|
| ミナミメダカ東瀬戸内集団 <i>Oryzias latipes</i> (Temminck & Schlegel, 1846) ダツ目 メダカ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

従来、メダカの南日本集団とされ、2012年にミナミメダカの名前を与えられた種であり、更に9つの地域集団を内包しているうちの1集団。和歌山県では紀北地域から紀伊半島西側の紀南地域まで幅広く生息している。



選定理由

本種は、平野部の河川や水路、水田等、流れが緩やかで河畔に水生植物が繁茂する場所を好む。

近年は水路のコンクリート化、他地域個体群の放流による遺伝的攪乱、生態的ニッチが重なる外来種との競合、外来種による食害等を受け、極端に生息数が減少している。特に、紀の川水系や田辺市における本集団の分布は局所的で、競合により外来種に置き換わる状況が続いており、早急な対策が必要である。

執筆者 (山田大貴)

参考文献
・情報

- 1 Asai, T., Senou, H. & Hosoya, K. 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei: Adrianichthyidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 22 (4) : 289-299.
- 2 土井 浩. 1992. 和歌山市の池や水路に住む生物 2. 紀州生物, 25 : 17-22
- 3 竹花佑介・酒泉 満. 2002. メダカの遺伝的多様性の危機. 遺伝, 56 (6) : 66-67.
- 4 Takehana, Y., Nagai, N., Matsuda, M., Tsuchiya, K. & Sakaizumi, M. 2003. Geographic variation and diversity of the cytochrome *b* gene in Japanese wild populations of medaka, *Oryzias latipes*. Zoological Science, 20 : 1279-1291.
- 5 植田育男. 1982. 和歌山市におけるメダカとカダヤシの分布. 南紀生物, 24 (1) : 64-69.
- 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック—. 442pp.
和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|---|-------------|----|------|-------------|---|-------------|
| ミナミメダカ東日本集団 <i>Oryzias latipes</i> (Temminck & Schlegel, 1846) ダツ目 メダカ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

従来のメダカ南日本集団が2012年にミナミメダカとなり、その中に内包される9つの地域集団のうちの1集団。和歌山県での分布は、那智勝浦町や新宮市等、限定的である。



選定理由

本種は、平野部の河川や水路、水田等、流れが緩やかで河畔に水生植物が繁茂する場所を好む。近年は水路のコンクリート化、他地域個体群の放流による遺伝的攪乱、生態的ニッチが重なる外来種との競合、外来種による食害等を受け、極端に生息数が減少している。

特に和歌山県内は、本種の生息環境である平野部が少なく個体群が小さいため、人為的な影響を大きく受けていると思われる。

執筆者 (山田大貴)

参考文献
・情報

- 1 Asai, T., Senou, H. & Hosoya, K. 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei: Adrianichthyidae). Ichthyological Exploration of Freshwaters, 22 (4) : 289-299.
- 2 土井 浩. 1992. 和歌山市の池や水路に住む生物 2. 紀州生物, 25 : 17-22.
- 3 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町のゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30 : 39-57.

参考文献
・情報

- 4 竹花佑介・酒泉 満. 2002. メダカの遺伝的多様性の危機. 遺伝, 56 (6) : 66-67.
- 5 Takehana, Y., Nagai, N., Matsuda, M., Tsuchiya, K. & Sakaizumi, M. 2003. Geographic variation and diversity of the cytochrome *b* gene in Japanese wild populations of medaka, *Oryzias latipes*. Zoological Science, 20 : 1279-1291.
- 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河提供 (県外産)

アカメ *Lates japonicus* Katayama & Taki, 1984 **スズキ目 アカメ科**

| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧ⅠB類 (EN) |
|--------|-------------|----|------|-------------|---|--------------|
|--------|-------------|----|------|-------------|---|--------------|

選定理由

静岡県から鹿児島県の太平洋側沿岸や河口域に生息する。瞳孔に血液の色が反射し、眼が赤く見えるためアカメ（赤眼）とよばれる。最大で1.3 mを超える大型の肉食魚で、生息のためには餌である小型魚類や甲殻類が豊かな環境が必要。幼魚期はコアマモ・アマモ場を利用することが知られており、コアマモ・アマモ場の減少も本種の生息数に影響すると考えられる。



和歌山県内では和歌山市紀の川、湯浅湾、由良町、御坊市、みなべ町、田辺市、白浜町、すさみ町、太地町等の河口域及び沿岸域で散発的に記録されている。

上記以外の地域でも写真等で比較的信頼できる記録があり、和歌山県内全域に分布していると考えられるが、個体数は多くないと考えられる。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 荒賀忠一・田名瀬英明. 1987. 和歌山県沿岸におけるアカメの採捕記録. 瀬戸臨海実験所年報, 1 : 59-61.
- 2 平嶋健太郎・揖 善継. 2009. 和歌山県由良町から得られたアカメ. 南紀生物, 51 (2) : 154-155.
- 3 池田博美・中坊徹次 編. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 597pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 4 小阪 晃. 1993. 紀ノ川のアカメ. 和歌山県立自然博物館だより, 11 (2) : 7.
- 5 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山市
写真: 國島大河提供

イドミミズハゼ *Luciogobius pallidus* Regan, 1940 **スズキ目 ハゼ科**

| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |
|--------|-------------|----|------|-------------|---|------------|
|--------|-------------|----|------|-------------|---|------------|

選定理由

主に沿岸部や河川の伏流水や地下水に生息している標準体長5 cm程の両側回遊性魚類。

和歌山県内では、河川河口域の自然環境が良好に保たれた場所で見られるが、個体数は非常に少ない。



地下水性である本種は、生息数や生態に未だ不明な点が多いが、近年行われている和歌山県内の大規模な工事による土砂の流入等で地下水の分断や河川の底質の変化が起きており、本種の生息が危惧される。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2010. 紀州の鯊 34 イドミミズハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 28 (1) : 8.
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19 : 33-40.
- 3 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30 : 39-57.
- 4 平嶋健太郎・高橋弘明. 2008. 和歌山県産イドミミズハゼの水槽内産卵および初期発育. 魚類学雑誌, 55 (2) : 121-126.

- 5 平嶋健太郎・富川 光・平井厚志・内山りゅう・田上 至・川本康司・松野茂富. 2019. 古座川から採集されたユウスイミミズハゼ (脊索動物門:ハゼ科) の記録. 南紀生物, 61 (2):136-138.
 - 6 乾 隆帝・赤松良久・新谷哲也・小山彰彦. 2015. 希少種イドミミズハゼの生息環境と生息場の河床変動および塩分変動特性. 土木学会論文集 B1 (水工学), 71 (4):949-954.
 - 7 伊谷 行・相沢直宏・田名瀬英朋. 1996. ヨコアナジャコの巣穴から採集されたイドミミズハゼ. 南紀生物, 38 (1):53-54.
 - 8 前田知範・平嶋健太郎. 2020. 和歌山県印南町で採集された紀伊半島初記録のアマハゼと希少種のイドミミズハゼの記録. 南紀生物, 62 (2):128-130.
 - 9 奥村大輝・井藤大樹・乾 隆帝. 2021. 徳島県南部の3河川から得られたイドミミズハゼ (スズキ目:ハゼ科) の記録. 四国自然史科学研究, 14, 12-18.
 - 10 芝口常楠. 1965. ドウクツミミズハゼについて. 南紀生物, 7 (1):19.
 - 11 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12:29-96.
- 写真:平嶋健太郎撮影

参考文献
・情報

| | | | |
|--|-------------|-------------|--------------|
| チワラスボ (チワラスボ B 種) <i>Taenioides snyderi</i> Jordan & Hubbs, 1925 | | スズキ目 | ハゼ科 |
| 県カテゴリ | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 |
| | | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 |
| | | | 絶滅危惧ⅠB類 (EN) |

魚
類

体は長細く伸長し、最大 25 cm 程になる。目は小さく、頭部には感覚器官が著しく発達する。口には鋭い歯が並び、泥中の微小動物を捕食すると考えられる。下顎に 6 本のひげ状突起を持つことや、背鰭・臀鰭・胸鰭軟条数の組み合わせ等によって、他のチワラスボ種群と識別できる。ただし、下顎のひげ状突起には変異があることが示唆されている。



選定理由 和歌山県内では、和歌浦湾のような内湾域から、底曳網で多く採集され、海域の砂泥底にも生息することが示唆される。ただし、海域での詳しい生息状況は不明。干潟では、コガネチワラスボと比べて潮下帯の泥底から採集されることが多い。

本種の生息する干潟環境は、埋め立てや港湾工事による消失、流入河川での改修や隣接する陸域の改変により、著しく劣化の一途を辿っている。

従来、国内の“チワラスボ”は全て *Taenioides cirratus* (Blyth, 1860) とされていたが、Kurita & Yoshino (2012) によって 4 種が含まれることが明らかになった。その後、Murdy (2018) はチワラスボの学名を *T. snyderi* に確定させた。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 道津喜衛. 1958. アカウオおよびチワラスボの生態・幼期. 九州大学農学部学藝雑誌, 16 (3):371-380.
 - 2 平嶋健太郎・揖 善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降, 紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. 和歌山県立自然博物館館報, 28:61-67.
 - 3 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ: <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022 年 11 月 1 日参照)
 - 4 是枝怜旺・本村浩之. 2021. コガネチワラスボ (新称) とチワラスボ (ハゼ科チワラスボ属) の鹿児島県における分布状況、および両種の標徴の再評価と生態学的新知見. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 10:75-104.
 - 5 Kurita, T. & Yoshino, T. 2012. Cryptic diversity of the eel goby, genus *Taenioides* (Gobiidae: Amblyopinae), in Japan. Zoological Science, 29 (8):538-545.
 - 6 Murdy, E. O. 2018. A redescription of the gobiid fish *Taenioides purpurascens* (Gobiidae: Amblyopinae) with comments on, and a key to, species in the genus. Ichthyological Research, 65:454-461.
 - 7 中谷義信. 1988. 海で投網を打って何がとれるの? 和歌山県立自然博物館だより, 6 (2):6.
- 写真:國島大河撮影

コガネチワラスボ *Taenioides gracilis* (Valenciennes, in Cuvier & Valenciennes, 1837) スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-------------|----|------|---|---|--------------|
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 絶滅危惧ⅠB類 (EN) |
|--------|-------------|----|------|---|---|--------------|

体は長細く伸長し、最大 25 cm 程になる。目は小さく、頭部には感覚器官が著しく発達する。口には鋭い歯が並び、泥中の微小動物を捕食すると考えられる。下顎に 7 本のひげ状突起を持つことや、背鰭・臀鰭・胸鰭軟条数の組み合わせ等によって、他のチワラスボ種群と識別できる。ただし、下顎のひげ状突起には変異があることが示唆されている。



選定理由

還元層の少ない泥干潟の底質中に生息する。ヤビーポンプと呼ばれる、スナモグリ類やアナジャコ類を採集する道具によって、アナジャコ類やテッポウエビ類等の海産甲殻類の巣穴から採集されることが多い。本種は、和歌山県内から散発的な記録があり、一定数の個体が生息しているものと推察されるが、その生息環境から採集されにくく、詳細な生息数や生態は不明である。

本種の生息する干潟環境は、埋め立てや港湾工事による消失、河川改修や河口堰建設に伴う干潟の底質変化、流入河川の水質汚濁によって著しく劣化の一途を辿っている。

これまで国内の“チワラスボ”は全て *Taenioides cirratus* (Blyth, 1860) とされていたが、Kurita and Yoshino (2012) によって 4 種が含まれることが明らかになった。その後、Murdy (2018) はチワラスボの学名を *T. snyderi* に確定させ、是枝・本村 (2021) は *T. gracilis* (Valenciennes, in Cuvier and Valenciennes, 1837) にコガネチワラスボの和名を提唱した。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 道津喜衛. 1958. アカウオおよびチワラスボの生態・幼期. 九州大学農学部学藝雑誌, 16 (3) : 371-380.
- 2 平嶋健太郎・揖 善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降, 紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. 和歌山県立自然博物館館報, 28 : 61-67.
- 3 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ : <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022 年 11 月 1 日参照)
- 4 是枝怜旺・本村浩之. 2021. コガネチワラスボ (新称) とチワラスボ (ハゼ科チワラスボ属) の鹿児島県における分布状況、および両種の標徴の再評価と生態学的新知見. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 10 : 75-104.
- 5 Kurita, T. & Yoshino, T. 2012. Cryptic diversity of the eel goby, genus *Taenioides* (Gobiidae : Amblyopinae), in Japan. Zoological Science, 29 (8) : 538-545.
- 6 Murdy, E. O. 2018. A redescription of the gobiid fish *Taenioides purpurascens* (Gobiidae : Amblyopinae) with comments on, and a key to, species in the genus. Ichthyological Research, 65 : 454-461.
- 7 中谷義信. 1988. 海で投網を打って何がとれるの? 和歌山県立自然博物館だより, 6 (2) : 6.
- 8 山下龍之丞・尾山大知・碧木健人・鎗田めぐ・山川宇宙. 2022. 関東地方沿岸におけるヒゲワラスボおよびコガネチワラスボの記録 : 2 種の出現記録の増加傾向とその要因. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 20, 1-12.

写真 : 平嶋健太郎提供

トビハゼ *Periophthalmus modestus* Cantor, 1842 スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-------------|----|------|------------|---|------------|
| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |
|--------|-------------|----|------|------------|---|------------|

選定理由

眼は頭部上方に位置する。背鰭は丸く、模様はない。腹鰭は癒合し、蝶ネクタイのような形状。泥干潟の上を這い回り、飛び跳ねるように移動する。初夏になるとオスが干潟の底質を掘って産卵巣を作る。



砂泥質の干潟やその周辺の塩性湿地に生息する。特に高潮位帯で見られることが多い。

和歌山県では紀の川や日高川河口、田辺湾周辺やゆかし潟等の攪乱の少ない安定した汽水域で見られ、特に紀伊水道沿岸の汽水域で多く見られる。

選定理由

河川河口域における干潟の埋め立てや塩性植物の伐採によって生息地の減少や消失が生じ、局所的な分布になっている。和歌山県内での生息地は限定的であり、地域個体群の維持が望まれる。

執筆者（國島大河）

参考文献・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類Ⅰー下流域を中心にしてー. 南紀生物, 34 (1): 33-46.
- 2 藤田昂己. 2006. 紀ノ川大堰周辺で確認できた生物. くろしお, 25: 22.
- 3 平嶋健太郎. 2002. 和歌山県下津町加茂川の魚類Ⅲー加茂川流程の魚類分布調査ー. 南紀生物, 44 (1): 4-11.
- 4 平嶋健太郎. 2005. 紀州の鯊 18 トビハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 23 (2): 6.
- 5 平嶋健太郎・丸山秀人. 2012. 和歌川河口干潟の魚類相. 南紀生物, 54 (1): 24-30.
- 6 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ: <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
- 7 牧 岩男. 1987. 紀伊半島の自然史ー 19ー紀の川の魚類. 和歌山県立自然博物館だより, 5 (3): 2.
- 8 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史ー 23ー紀の川の魚類 (5). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (3): 2.
- 9 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次. 2001. 和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種, 1976-2001. 南紀生物, 43: 102-108.
- 10 坂田直彦・古賀庸憲・柚原 剛・鈴木孝男・中川雅博・佐々木美貴. 2016. 和歌川河口妹背山周辺の干潟において 2010 年に実施した「干潟生物の市民調査」の結果. 和歌山大学教育学部紀要自然科学, 66: 25-29.
- 11 玉田一晃. 1993. 富田川の魚類相. 南紀生物, 35 (2): 125-132
- 12 玉田一晃. 1993. 日高川の魚類およびチチブ属魚類 2 種の種間関係. くろしお, 12: 51-53.
- 13 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河撮影

オオヨシノボリ *Rhinogobius fluviatilis* Tanaka, 1925 スズキ目 ハゼ科

| 県カテゴリー | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | — |
|--------|-------------|----|------|------------|---|---|
|--------|-------------|----|------|------------|---|---|

比較的規模の大きな河川の早瀬等に生息する。標準体長 8 cm 程の両側回遊性魚類で、頬は無斑紋か赤小班がある。胸鰭基部に三角形に近い黒斑があることが特徴。オスの第一背鰭は伸長する。



選定理由

和歌山県内では流程 10 km 以上の河川の早瀬にみられる。また、ダムに陸封された個体群も確認されているが、他の両側回遊性ヨシノボリ類に比べて陸封例は少なく、生息河川へのダムの建設は非常に大きな悪影響を与える。

また、山林の荒廃による河川水の減少等で生息地が失われ、加えて、外来魚の侵入で被食の危機がある。

執筆者（平嶋健太郎）

参考文献・情報

- 1 平嶋健太郎. 2016. ヨシノボリ属魚類の生活史の多様性、その適応について. 海洋と生物, 225: 363-369.
- 2 Sumizaki, Y., Kawanishi, R., Inoue, M., Takagi, M. & Omori, K. 2019. Contrasting effects of dams with and without reservoirs on the population density of an amphidromous goby in southwestern Japan. Ichthyological Research, 66 (3): 319-329.
- 3 高木基裕・関家一平・柴川涼平・清水孝昭・川西亮太・井上幹生. 2012. 愛媛県加茂川・中山川におけるヨシノボリ類個体群のダム隔離による遺伝的影響. 応用生態工学, 15 (2): 161-170.
- 4 高木基裕・柴川涼平・清水孝昭・大森浩二・井上幹生. 2013. 吉野川におけるオオヨシノボリ個体群の遺伝的分化、および陸封化. 応用生態工学, 16 (1): 13-22.
- 5 玉田一晃. 2000. 和歌山県会津川における両側回遊性ヨシノボリ属魚類 4 種の産卵場の分布. 魚類学雑誌, 47 (1): 55-59.
- 6 玉田一晃. 2001. 同一河川に棲息する両側回遊性ヨシノボリ類 3 種の卵数および卵サイズ. 魚類学雑誌, 48 (1): 49-52.

参考文献
・情報

7 Tamada, K. & Iwata, K. 2005. Intra-specific variations of egg size, clutch size and larval survival related to maternal size in amphidromous *Rhinogobius* goby. *Environmental Biology of Fishes*, 73 : 379-389.

写真：國島大河提供（県外産）

オオウナギ *Anguilla marmorata* Quoy & Gaimard, 1824 **ウナギ目** **ウナギ科**

| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | - |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|
|--------|------------|----|------|------------|---|---|

インド洋から太平洋の熱帯地方を中心に分布するウナギ科魚類。太平洋側では茨城県以南、東シナ海側では長崎県以南に分布する。全長 2 m 以上になる大型の肉食魚で、生息には餌となる多くの生物が必要。体に斑紋があること、背鰭起部から肛門までの距離が全長の約 16 % であることなどが特徴。



選定理由 和歌山県では海南市、由良町、印南町、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町、太地町、那智勝浦町から記録があり、紀南地方で多い。

本種のシラスウナギの来遊は、和歌山県でも毎年確認されているが、近年大型個体の記録が少なく、河川水位の低下による淵の消滅や、コンクリート護岸化に伴う空隙の減少による生息環境の悪化が生息数減少の要因と考えられる。

なお、富田川の河口より約 16 km の区間は、「オオウナギ生息地」として国の天然記念物に指定され、保護されている。

執筆者（揖 善継）

参考文献
・情報

- 1 池田博美・中坊徹次 編. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 597pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 2 揖 善継. 2014. 和歌山県海南市下津町で採捕されたオオウナギ. *南紀生物*, 56 (2) : 139-141.
 - 3 揖 善継・中田 稔. 2013. 和歌山県印南町切目川水系におけるオオウナギ *Anguilla marmorata* Quoy et Gaimard の県内北限記録. *南紀生物*, 55 (1) : 70-72.
 - 4 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 5 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：平嶋健太郎提供

ズナガニゴイ *Hemibarbus longirostris* (Regan, 1908) **コイ目** **コイ科**

| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 学術的重要 (SI) | 国 | - |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|
|--------|------------|----|------|------------|---|---|

ニゴイ類の中では小型で、標準体長 20 cm 程である。体形は細く、頭部と吻部が長い為、名前の通り「ズナガ」である。体側には小黑斑が見られ、成魚になっても消失しない。



選定理由

本種の分布は近畿地方以西の本州のみに限られており、非常に興味深い。和歌山県では、広川町の広川に生息する個体群が県内における自然分布の南限となる。河川中流域の流れの緩やかな砂底を好むが、河川改修やダムの影響により、これらの生息環境は少なくなっている。稚アユの放流に伴って移入したと思われる個体が広川以南の水系に認められる。

執筆者（山田大貴）

参考文献
・情報

- 1 和歌山県. 1978. 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (淡水魚類). 44pp. 和歌山県.
 - 2 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：平嶋健太郎提供

ギギ *Tachysurus nudiceps* (Sauvage, 1883) ナマズ目 ギギ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | - |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|

標準体長が 40 cm 近くになり、日本産ギギ科魚類としては最大種。日中は浮石等の下に隠れており、夜間に活発に泳いで餌を探す。肉食性が強い。5月~7月に岩の下や礫の間に産卵し、オスは巢内で卵を保護する。



選定理由 琵琶湖淀川水系以西の本州、四国（吉野川）、九州東部に自然分布する日本固有種である。和歌山県では紀の川、有田川、広川、熊野川等の水系に分布する。なお、広川より南側の自然分布は確認されておらず、日高川・日置川水系の個体群は、確認された状況や個体数等から移入由来と考えられる。

河川中流域の石の下や抽水植物の周辺に隠れるが、河川の護岸工事等により、これらの環境が減少している。

なお、宇井（1924）と牧（1988）のハゲギギは、本種と判断した。

執筆者（山田大貴）

**参考文献
・情報**

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類 I - 下流域を中心にして -. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
 - 2 細谷和海・内山りゅう. 2015. 山溪ハンディ図鑑 15 日本の淡水魚. 527pp. 山と溪谷社, 東京.
 - 3 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史 - 21 - 紀の川の魚類 (3), 和歌県立自然博物館だより, 6 (1) : 2.
 - 4 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11 : 33-60.
 - 5 宇井縫蔵. 1924. 紀州魚譜. 281pp. 紀元社, 大阪.
 - 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック -. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：平嶋健太郎提供

ドンコ *Odontobutis obscura* (Temminck & Schlegel, 1845) スズキ目 ドンコ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | - |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|

主に本州から九州までに分布する日本固有種。遺伝的解析から3集団（東瀬戸・西瀬戸・西九州）に分けられており、和歌山県の紀北地域の個体群は、東瀬戸型に属す。なお、紀南からの記録もあるが、在来個体群かは不明である。



選定理由 一生を淡水域で過ごす純淡水魚で、体はずんぐりしており、褐色から暗色を呈す。初夏頃が繁殖期で、オスが巢の中で卵保護をする。河川中流域の淵や湿生植物の根元等、流れのゆるやかな場所に生息する。特に、餌となる小型の甲殻類が多く、浮石の多い環境を好む。

近年の河川での浚渫や護岸改修に伴う土砂堆積や水質汚濁等による生息地の環境悪化が懸念される。

執筆者（國島大河）

**参考文献
・情報**

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類 I - 下流域を中心にして -. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
- 2 平嶋健太郎. 2003. 紀州の鯿 12 ドンコ. 和歌山県立自然博物館だより, 21 (4) : 8.
- 3 岩田明久. 2001. ドンコ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編）山溪カラー名鑑 改訂版日本の淡水魚. p. 558-560. 山と溪谷社, 東京.
- 4 牧 岩男. 1987. 紀伊半島の自然史 - 19 - 紀の川の魚類. 和歌山県立自然博物館だより, 5 (3) : 2.
- 5 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史 - 21 - 紀の川の魚類 (3). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (1) : 2.
- 6 牧 岩男. 1988. 紀伊半島の自然史 - 22 - 紀の川の魚類 (4). 和歌山県立自然博物館だより, 6 (2) : 2.
- 7 向井貴彦・西田 睦. 2003. 日本産ドンコにおけるミトコンドリア DNA の系統と関東地方への人為移植の分子的証拠. 魚類学雑誌, 50 (1) : 40-53.
- 8 中谷義信・田上伸治・吉田 誠. 1991. 有田川の魚類相 (1). 和歌山県立自然博物館館報, 9 : 29-31.

参考文献
・情報

- 9 中谷義信・吉田 誠. 1992. 有田川の魚類相 (2). 和歌山県立自然博物館館報, 10: 49-52.
- 10 中谷義信・吉田 誠. 1993. 有田川の魚類相 (3). 和歌山県立自然博物館館報, 11: 33-60.
- 11 Sakai, H., Iwata, A. & Byeon, H. -K. 2002. Genetic relationship between Japanese and Korean *Odontobutis obscura* (Pisces, Odontobutidae). Biogeography, 4: 39-44.
- 12 Sakai, H., Yamamoto, C. & Iwata, A. 1998. Genetic divergence, variation and zoogeography of a freshwater goby, *Odontobutis obscura*. Ichthyological Research, 45 (4): 363-376.
- 13 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 14 玉田一晃. 1993. 富田川の魚類相. 南紀生物, 35 (2): 125-132.
- 15 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河撮影

アマハゼ *Inu ama* Snyder, 1909 **スズキ目** **ハゼ科**

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|------------|----|------|---|---|---|

岩礫性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する標準体長 3 cm 程のハゼ科魚類。

選定理由 和歌山県内では中南部の自然環境が良好に保たれた海岸に見られるが、生息場所も個体数も少ない。沿岸域への土砂の流入や護岸工事等により、本種の生活の場である礫底の間隙が消滅し、危機的である。



執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 前田知範・平嶋健太郎. 2020. 和歌山県印南町で採集された紀伊半島初記録のアマハゼと希少種のイドミミズハゼの記録. 南紀生物, 62 (2): 128-130.
- 2 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之. 2020. *Inu Snyder, 1909* とは何か?ーコマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する考察. 東海自然誌, 13: 76-119.
- 3 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29-96.
写真: 平嶋健太郎撮影

コマハゼ *Inu koma* Snyder, 1909 **スズキ目** **ハゼ科**

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|------------|----|------|---|---|---|

岩礫性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する標準体長 3 cm 程のハゼ科魚類。

選定理由 和歌山県内では中南部の自然環境が良好に保たれた砂礫底の海岸に見られるが、生息場所も個体数も少ない。



沿岸部への土砂の流入や沿岸の護岸工事等により、本種の生活の場である砂礫の間隙が著しく消失し、危機的な状況である。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 前田知範・平嶋健太郎. 2020. 和歌山県印南町で採集された紀伊半島初記録のアマハゼと希少種のイドミミズハゼの記録. 南紀生物, 62 (2): 128-130.
- 2 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之. 2020. *Inu Snyder, 1909* とは何か?ーコマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する考察. 東海自然誌, 13: 76-119.
写真: 平嶋健太郎撮影

ダイダイソミミズハゼ *Luciogobius yubai* Ikeda, Tamada & Hirashima, 2018 スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|------------|----|------|---|---|---|

陸地からの淡水が染み出すような岩礫性海岸に生息する標準体長 5 cm 程のハゼ科魚類。

和歌山県内では自然環境が良好に保たれた岩礫性海岸に見られるが、生息場所が少なく、生態も

選定理由 不明な点が多い。

土砂の流入や沿岸域での護岸工事、山林の荒廃による地下水の減少等により、生息地が危機的な状況である。

和歌山県が模式産地となっている。



執筆者 (平嶋健太郎)

**参考文献
・情報**

- 1 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. 南紀生物, 60 (1) : 38-41.
 - 2 平嶋健太郎. 2020. 紀州の鯊 75 アカツキミミズハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 38 (1) : 8.
 - 3 Ikeda, Y., Tamada, K. & Hirashima, K. 2018. *Luciogobius yubai*, a new species of gobioid fish (Teleostei : Gobiidae) from Japan. Zootaxa, 4657 (3) : 565-572.
 - 4 是枝伶旺・清水直人・本村浩之. 2020. 鹿児島湾から得られた南限記録となるダイダイソミミズハゼの記録と本種の生態学的新知見. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 3 : 51-55.
 - 5 斉藤洪成・難波拓登. 2022. 高知県大月町から得られた四国初記録のダイダイソミミズハゼ. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 21, 27-30.
 - 6 波川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12 : 29-96.
 - 7 波川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之. 2020. *Inu Snyder*, 1909 とは、何か？ーコマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する報告. 東海自然誌, 13 : 79-116.
- 写真：平嶋健太郎撮影

オオミミズハゼ *Luciogobius grandis* Arai, 1970 スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|------------|----|------|---|---|---|

陸地からの淡水が染み出すような岩礫性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する標準体長 8 cm 程のハゼ科魚類。

選定理由 和歌山県内の北部から南部にかけて分布するが、波当たりが強く、シルトの堆積しない、淡水の影響のある海岸に見られる。

土砂の流入や沿岸域での護岸工事、山林の荒廃による地下水の減少や護岸による地下水の遮断等により、生息地が危機的な状況である。



執筆者 (平嶋健太郎)

**参考文献
・情報**

- 1 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. 南紀生物, 60 (1) : 38-41.
 - 2 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1) : 35-38.
 - 3 波川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12 : 29-96.
- 写真：平嶋健太郎撮影

| | | | | | | |
|---|------------|----|------|------------|---|------------|
| ヒモハゼ <i>Eutaeniichthys gilli</i> Jordan & Snyder, 1901 スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |

河口や前浜干潟の潮間帯から潮下帯までに生息し、砂礫や砂の底質を好む。和歌山県では、和歌山市や白浜町、田辺市、那智勝浦町等の汽水域で生息が確認されている。体は細長くひも状、吻端から尾部にかけて体側中央に暗色の縦帯がある。



選定理由

ニホンスナモグリやアナジャコ、ヨコヤアナジャコの巣穴を生息場や産卵場として利用することが知られ、それらの生息状況も本種の出現に重要な要因と考えられる。

干潟域での埋め立てや、流入河川での浚渫や護岸工事等に伴う生息地の底質環境の変化が減少の原因に挙げられる。

なお、奄美大島および西表島の個体群は、九州以北のものと形態的にも遺伝的にも異なることが示唆されている。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 道津喜衛. 1955. ヒモハゼの生活史. 日本生物地理学会会報, 16-19: 338-344.
- 2 江口勝久・乾 隆帝・中島 淳・鬼倉徳雄・及川 信. 2008. 九州におけるヒモハゼの分布の現状. 九州大学大学院農学研究院学芸雑誌, 63 (1): 27-33.
- 3 Henmi, Y. & Itani, G. 2014. Burrow utilization in the goby *Eutaeniichthys gilli* associated with the mud shrimp *Upogebia yokoyai*. Zoological Science, 31 (8): 523-528.
- 4 邊見由美・岩田洋輔・伊谷 行. 2014. ヒモハゼとクボハゼによる干潮時のヨコヤアナジャコの巣穴利用. 日本ベントス学会誌, 69 (2): 69-75.
- 5 平嶋健太郎. 2015. 紀州の鯊 54 ヒモハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 33 (1): 8.
- 6 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19: 33-40.
- 7 平嶋健太郎・丸山秀人. 2012. 和歌川河口干潟の魚類相. 南紀生物, 54 (1): 24-30.
- 8 乾 隆帝・小山彰彦. 2014. 本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類. 魚類学雑誌, 61 (2): 105-109.
- 9 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ: <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
- 10 Mukai, T., Suzuki, T. & Nishida, M. 2003. Genetic differentiation of the brackish water goby, *Eutaeniichthys gilli* (Perciformes, Gobiidae) between the Japanese and Ryukyu Archipelagos. Biogeography, 5: 49-53.
- 11 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 12 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブッカー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 國島大河撮影 (県外産)

| | | | | | | |
|--|------------|----|------|------------|---|-------------|
| マサゴハゼ <i>Pseudogobius masago</i> (Tomiyama, 1936) スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

宮城県から沖縄県沖縄島までの汽水域に生息する。河口域や干潟域、その周辺の塩性湿地を主な生息地としており、地盤が高く、軟泥質の場所を好む。和歌山県では、和歌川河口や富田川河口、日高川河口等で生息が確認されている。



選定理由

体長は最大でも 3 cm 程。吻部が丸く、体に暗色点が散在する。和歌浦干潟では、干潮時に篠筋やタイドプールに密集していることが多く、主な産卵期が 5~9 月と推定されている。寿命はおよそ 1 年。

和歌山県内での生息地では、個体密度は極めて高いが、分布が非常に局所的であることから、現在生息が確認されている場所の保全が重要である。特に、和歌浦干潟や日高川河

選定理由

口干潟では、人為的な攪乱や埋め立てによって本種の生息環境である軟泥底の硬化や縮小が確認されており、県内における本種の主な生息地について存続が危ぶまれている。
 なお、沖縄島の個体群は、本州の個体群と遺伝的に異なることが示唆されている。

執筆者（國島大河）

参考文献
・情報

- 1 道津喜衛. 1958. マサゴハゼの生活史. 九州大學農學部學藝雜誌, 16 (3) : 359-369.
- 2 藤田昂己. 2006. 紀ノ川大堰周辺で確認できた生物. くろしお, 25 : 22.
- 3 平嶋健太郎. 2002. 和歌山県下津町加茂川の魚類 III - 加茂川流程の魚類分布調査 -. 南紀生物, 44 (1) : 4-11.
- 4 平嶋健太郎. 2008. 紀州の鯊 27 マサゴハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 26 (2) : 8.
- 5 平嶋健太郎・丸山秀人. 2012. 和歌川河口干潟の魚類相. 南紀生物, 54 (1) : 24-30.
- 6 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19 : 33-40.
- 7 乾 隆帝・小山彰彦. 2014. 本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類. 魚類学雑誌, 61 : 105-109.
- 8 伊藤 亮・向井貴彦. 2007. 三重県揖斐川下流域におけるマサゴハゼの生活史. 南紀生物, 49 : 103-107.
- 9 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ : <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
- 10 國島大河. 2021. 和歌山県和歌浦干潟におけるマサゴハゼの繁殖期と寿命の推定. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 15 : 17-21.
- 11 國島大河・西丸裕敏・立原一憲. 2014. 沖縄島佐敷干潟におけるスナゴハゼ *Pseudogobius javanicus* とマサゴハゼ *P.masago* の生息環境. 魚類学雑誌, 61 (2) : 59-67.
- 12 Okazaki, D., Kanou, K., Yokoo, T. & Kohno, H. 2012. Feeding ecology of the tidepool-dwelling goby *Pseudogobius masago* on an estuarine mudflat. Biogeography, 14 : 51-56.
- 13 西丸裕敏・國島大河・立原一憲. 2018. 沖縄島漫湖におけるマサゴハゼ *Pseudogobius masago* の生活史. 魚類学雑誌, 65 (1) : 59-66.
- 14 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブッカー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
 写真 : 平嶋健太郎提供

魚類

ゴマハゼ *Pandaka* sp. スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|------------|---|----------------|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | 絶滅危惧 II 類 (VU) |
|--------|------------|----|------|------------|---|----------------|

流れの緩やかな汽水域に生息する標準体長 1.5 cm 程のハゼ科魚類。

冬季は黒潮の影響を受けて水温の高い水域に集まり越冬する。和歌山県内では日高川以南の河口や潟湖、漁港周辺等で見られるが、過去の水害と護岸工事以降、御坊市周辺の個体群は消失したまま回復していない等、本種の安定した生息地は限られる。

選定理由

和歌山県南東部は、紀伊半島における本種個体群の最大の生息地と思われ、人為的攪乱は避けるべきである。

護岸工事や河川改修等、生息地の改変等により、生息環境の悪化が危惧される。

執筆者（平嶋健太郎）



参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19 : 33-40.
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30 : 39-57.
- 3 Mukai, T., Suzuki, T. & Nishida, M. 2004. Genetic and geographical differentiation of *Pandaka* gobies in Japan. Ichthyological Research, 51 : 222-227.
 写真 : 平嶋健太郎撮影

ルリヨシノボリ *Rhinogobius mizunoi* Suzuki, Shibukawa & Aizawa, 2017 スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | — |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|

比較的規模の大きな河川の早瀬等に生息する標準体長 8 cm 程の両側回遊性魚類。

和歌山県内では流程 10 km 以上の比較的規模の大きな河川の早瀬に見られる。また、ダムによって陸封された個体群も確認されている。

オオヨシノボリと似た生息環境で見られるが、本種の方がやや規模の小さな水域でも見られる。山林の荒廃による河川水の減少やダムの建設等で生息地が失われている。また、外来魚による被食の危機がある。



執筆者 (平嶋健太郎)

- 参考文献・情報
- 1 平嶋健太郎. 2010. 紀州の鯊 36 ルリヨシノボリ. 和歌山県立自然博物館だより, 28 (3) : 8.
 - 2 平嶋健太郎. 2016. ヨシノボリ属魚類の生活史の多様性、その適応について. 海洋と生物, 225 : 363-369.
 - 3 酒井治己・新井崇臣・今井千文・杉山秀樹・佐藤仁志・田 祥麟. 2004. ルリヨシノボリ *Rhinogobius* sp. CO の自然陸封個体群. 魚類学雑誌, 51 (2) : 175-180.
 - 4 Suzuki, T., Shibukawa, K. & Aizawa, M. 2017. *Rhinogobius mizunoi*, a new species of freshwater goby (Teleostei : Gobiidae) from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 46 : 79-95.
 - 5 高木基裕・久保田侑意子・伊藤 明・渋谷雅紀・高橋弘明・酒井治己. 2012. 四国におけるルリヨシノボリの遺伝的多様性、分化および陸封化. 日本生物地理学会会報, 67 : 93-102.
 - 6 玉田一晃. 2000. 和歌山県会津川における両側回遊性ヨシノボリ属魚類 4 種の産卵場の分布. 魚類学雑誌, 47 (1) : 55-59.
 - 7 玉田一晃. 2001. 同一河川に棲息する両側回遊性ヨシノボリ類 3 種の卵数および卵サイズ. 魚類学雑誌, 48 (1) : 49-52.
 - 8 Tamada, K. & Iwata, K. 2005. Intra-specific variations of egg size, clutch size and larval survival related to maternal size in amphidromous *Rhinogobius* goby. Environmental Biology of Fishes, 73 : 379-389.
- 写真：國島大河提供

ウキゴリ *Gymnogobius urotaenia* (Hilgendorf, 1879) スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | — |
|--------|------------|----|------|------------|---|---|

北海道から屋久島までの汽水域や淡水域に生息する。口が大きく、第一背鰭後部に明瞭な黒色斑が見られる。繁殖期の春頃になると、雌雄ともに婚姻色が現れ、腹鰭や臀鰭が黒ずみ、メスの腹部は黄色を呈する。

和歌山県における分布は、紀北地域に集中しており局所的。大規模な河川の下流域における流れのゆるやかな場所や、ため池等の一時的水域に生息する。特に抽水植物の繁茂する場所に見られる。

近年は、河川改修や護岸工事により、一時的水域や流れのゆるやかな場所（ため池やワンド等）が減少している。



執筆者 (國島大河)

- 参考文献・情報
- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類 I - 下流域を中心に - . 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
 - 2 平嶋健太郎. 2009. 紀州の鯊 30 ウキゴリ. 和歌山県立自然博物館だより, 27 (1) : 8.
 - 3 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19 : 33-40.
 - 4 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30 : 39-57.

参考文献
・情報

- 石野健吾. 2001. ウキゴリ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編). 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚. p. 618-620. 山と溪谷社, 東京.
- Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes : Perciformes : Gobiidae), with the description of new species. *Species Diversity*, 7 : 251-312.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブッカー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真：平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|---|------------|----|------|-------------|---|-------------|
| チクゼンハゼ <i>Gymnogobius uchidai</i> (Takagi, 1957) スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

北海道から九州までの汽水域に生息する。体は長細く、アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴に入り込むのに適した体形をしている。顎下に2本のひげ状突起をもつことが特徴。



選定理由

和歌山県では、和歌浦干潟や日高川河口干潟等の汽水域に生息し、特に砂泥底の前浜干潟や河口干潟の潮間帯から潮下帯に生息する。アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴を利用することが知られ、それらの生息状況も本種の出現に重要な要因と考えられる。

干潟域での埋め立てや、流入河川での浚渫や護岸工事等に伴う生息地の底質環境の変化によって個体数や生息地が減少している。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 道津喜衛. 1957. チクゼンハゼの生態・生活史. 魚類学雑誌, 6 : 97-104.
- 平嶋健太郎. 2003. 紀州の鯊 11 チクゼンハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 21 (3) : 8.
- 平嶋健太郎・丸山秀人. 2012. 和歌川河口干潟の魚類相. 南紀生物, 54 (1) : 24-30.
- 乾 隆帝・小山彰彦. 2014. 本州・四国・九州の河口干潟に生息するハゼ類. 魚類学雑誌, 61 (2) : 105-109.
- Inui, R., Koyama, A. & Akamatsu, Y. 2018. Abiotic and biotic factors influence the habitat use of four species of *Gymnogobius* (Gobiidae) in riverine estuaries in the Seto Inland Sea. *Ichthyological Research*, 65 : 1-11.
- 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ : <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2022年11月1日参照)
- Stevenson, D. E. 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genus *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes : Perciformes : Gobiidae), with the description of new species. *Species Diversity*, 7 : 251-312.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版日本のハゼ. 584pp. 平凡社, 東京.
- 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブッカー. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真：國島大河撮影 (県外産)

| | | | | | | |
|---|------------|----|------|---|---|-----------------|
| イトヒゲモジャハゼ <i>Barbuligobius boehlkei</i> Lachner & McKinney, 1974 スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 準絶滅危惧 (NT) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 絶滅危惧 I B 類 (EN) |

琉球列島から本州まで記録があるが、奄美大島以北からのものは散発的である。和歌山県では、串本町やすさみ町等の水深の浅い砂浜で見られ、冬季にも潮間帯で見られることがある。



選定理由

本種は、頬や顎下にひげ状の皮弁が多数見られることが特徴。体色は半透明で白色斑が散在する。浅所の砂地に埋もれていることが多い。潮通しのよい砂礫底や礫底に生息する。

本種の国内における分布は飛び地状であり、和歌山県の生息地も局所的で、本県の個体数が減少しているかは不明。

執筆者 (國島大河)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2011. 紀州の鯊 38 イトヒゲモジャハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 29 (1) : 8.
- 2 環境省. 2017. 海洋生物レッドリスト-魚類-. 環境省ホームページ : <https://www.env.go.jp/press/files/jp/106403.pdf> (2022年11月1日参照)
- 3 申本さかな.com. 2021. ホームページ : <https://kushimoto-sakana.com/> (2022年8月6日参照)
写真 : 國島大河撮影

ホシキカイウツボ *Uropterygius* sp. ウナギ目 ウツボ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

伊豆諸島、小笠原諸島、南硫黄島、静岡県、高知県、屋久島、奄美大島、台湾等から記録されている。和歌山県では申本町の転石海岸から記録があるが、県内での分布や個体数については不明である。



選定理由

本種は、後鼻孔が眼の中央上方にあること、下顎の頭部側線管孔数が6個であること等が特徴。

本種の分類的な帰属は、まだ定まっておらず、和歌山県内の分布の詳細も不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
写真 : 平嶋健太郎提供

シロヒレタビラ *Acheilognathus tabira tabira* Jordan & Thompson, 1914 コイ目 コイ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|-----------------|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 情報不足 (DD) | 国 | 絶滅危惧 I B 類 (EN) |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|-----------------|

日本固有亜種。1対の口髭を持ち、婚姻色が出たオスは名前の通り臀鰭の外縁が白くなる。4月~9月頃に産卵期を迎え、20~40 mmの産卵管を伸ばす。流水性の二枚貝に産卵するが、地域によって利用する二枚貝に違いが見られる。



選定理由

1992年に紀の川でまとまった個体数が記録されているが、これ以外の記録がなく、またこの時の個体も精査されていないため、在来個体群かは不明である。亀の川水系からも1個体記録があるが、詳細は不明。

執筆者 (山田大貴)

参考文献
・情報

- 1 土井 浩. 1992. 紀ノ川の魚類 I - 下流域を中心にして -. 南紀生物, 34 (1) : 33-46.
- 2 Kitamura, J. 2007. Reproductive ecology and host utilization of four sympatric bitterling (*Acheilognathus*, Cyprinidae) in a lowland reach of the Harai River in Mie, Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 78 : 37-55.
- 3 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真 : 中谷義信提供

ニッポンバラタナゴ *Rhodeus ocellatus kurumeus* Jordan & Thompson, 1914 コイ目 コイ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|-----------------|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 絶滅危惧 I A 類 (CR) |
|--------|-----------|----|------|---|---|-----------------|

選定理由

日本固有亜種であり、琵琶湖淀川水系、山陰地方、四国北東部、九州北部に分布しているが、各地で外来種のタイリクバラタナゴとの交雑が進み、純粋な系統は一部の地域に残存するのみである。和歌山県においては 1980 年に記録があるが、標本は残されていない。また、分布状況や個体群の状態等、不明な点が多いため、今後の調査が待たれる。



執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 環境庁. 1980. 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (淡水魚類). <https://www.biodic.go.jp/reports/2-4/b000.html> (2022 年 11 月 1 日参照)
- 2 財団法人 日本自然保護協会. 1979. 動物分布調査報告書 (淡水魚類). p. 3, 8, 18, 22, 24. 和歌山. 写真: 平嶋健太郎提供

魚類

カワバタモロコ *Hemigrammocypripis neglecta* (Stieler, 1907) コイ目 コイ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|-----------------|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 情報不足 (DD) | 国 | 絶滅危惧 I B 類 (EN) |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|-----------------|

選定理由

氾濫原にできる湿地、ため池等を生息域とする標準体長 5 cm 程度の純淡水魚。日本固有種で、静岡県瀬戸川水系以西の本州太平洋側、四国瀬戸内側、九州北西部に分布している。各地で生息地が減少しており、2020 年に環境省の特定第二種 国内希少野生動植物種に指定された。オスはメスより小さく、産卵期になると黄金色を呈する。和歌山県では亀の川水系にて 1 件報告があるのみで、自然分布か放流由来なのかも含めて詳細は不明である。



執筆者 (山田大貴)

参考文献・情報

- 1 環境省. 2020. 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令. 環境省ホームページ: <https://www.env.go.jp/press/107622-print.html> (2021 年 12 月 13 日参照)
- 2 和歌山県. 1978. 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (淡水魚類). 44pp. 和歌山.
- 3 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山. 写真: 揖 善継提供 (県外産)

カマツカ *Pseudogobio esocinus* (Temminck & Schlegel, 1846) コイ目 コイ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 情報不足 (DD) | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|---|

選定理由

本種は西日本を中心に広く分布しており、和歌山県においては紀の川水系、亀の川水系、有田川水系、富田川水系、熊野川水系等から記録がある。2019 年に 3 種に分類されたカマツカ種群の 1 種で、河川の中・下流域の砂礫底を好み、底生生物を餌としている。



和歌山県で同所的に見られるナガレカマツカとの種間関係や生息地の違いをはじめ、過去に「カマツカ」として記録された生息地も精査する必要があり、未だ不明な点が多い。

執筆者 (山田大貴)

参考文献
・情報

- 1 Tominaga, K. & Kawase, S. 2019. Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes : Cyprinidae : Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus* (Temminck and Schlegel, 1846). *Ichthyological Research*, 66 : 488-508.
- 2 Tominaga, K., Nakajima, J. & Watanabe, K. 2016. Cryptic divergence and phylogeography of the pike gudgeon *Pseudogobio esocinus* (Teleostei : Cyprinidae) : a comprehensive case of freshwater phylogeography in Japan. *Ichthyological Research*, 63 : 79-93.
- 3 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真：國島大河提供

ナガレカマツカ *Pseudogobio agathonectris* Tominaga & Kawase, 2019 **コイ目** **コイ科**

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

2019年に新種記載されたカマツカ種群の1種。カマツカと同じように砂礫底を好み、底生生物を食べているが、中層を泳いでいることも多い。主な分布域は山口県から静岡県までの太平洋側とされており、和歌山県紀の川水系に見られる個体群が南限と考えられている。詳細な分布域や生息状況、同所的に見られる別種のカマツカとの種間関係等、不明な点が多い。



執筆者 (山田大貴)

参考文献
・情報

- 1 Tominaga, K. & Kawase, S. 2019. Two new species of *Pseudogobio* pike gudgeon (Cypriniformes : Cyprinidae : Gobioninae) from Japan, and redescription of *P. esocinus* (Temminck and Schlegel, 1846). *Ichthyological Research*, 66 : 488-508.
- 2 Tominaga, K., Nakajima, J. & Watanabe, K. 2016. Cryptic divergence and phylogeography of the pike gudgeon *Pseudogobio esocinus* (Teleostei : Cyprinidae) : a comprehensive case of freshwater phylogeography in Japan. *Ichthyological Research*, 63 : 79-93.
写真：平嶋健太郎提供

ドジョウ *Misgurnus anguillicaudatus* (Cantor, 1842) **コイ目** **ドジョウ科**

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|------------|---|------------|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 準絶滅危惧 (NT) | 国 | 準絶滅危惧 (NT) |
|--------|-----------|----|------|------------|---|------------|

選定理由

本種は和歌山県各地の河川や水路の砂泥底、水田、池等に分布しているが、平野部の宅地化や河川改修等により、生息地が縮小している。近年の研究により、遺伝的に複数のクレードが存在することが判明した。和歌山県では、2012年に発行されたレッドデータブックで準絶滅危惧種に選定されていたが、どのクレードが県内のどこに分布するか等の詳細は現状不明であり、情報不足とした。また、外来のドジョウ属が定着し、交雑やニッチの競合が進んでいることが予測されるが、現状ではこちらについても不明であり、DNA解析による調査が求められる。



執筆者 (山田大貴)

参考文献
・情報

- 1 土井 浩. 1996. 和歌山市の池や水路に住む生物 2. 紀州生物, 25 : 17-22
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2006. 釣り餌用生エビに混入する外来魚. 南紀生物, 48 (1) : 1-5.
- 3 小出水規行・竹村武士・渡部恵司・森 淳. 2009. ミトコンドリア DNA によるドジョウの遺伝的特性. 農業農村工学会論文集, 259 : 7-16.
- 4 松井彰子・中島 淳. 2020. 大阪府におけるドジョウ在来および外来系統の分布と形態的特徴にもとづく系統判別法の検討. 大阪市立自然史博物館研究報告, 74 : 1-15.
- 5 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真：國島大河提供

アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* (Temminck & Schlegel, 1846) サケ目 アユ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

秋季に河川汽水域の上縁付近の砂礫底に産卵し、ふ化した仔魚は河口部や沿岸部で成長し、春季に再び河川を遡上する。淡水域では転石上に付く珪藻等を主食に成長する。稀に2年生きる個体も出現するが、基本的に1年で死亡する年魚。



本種は水産上重要な魚種であり、漁業権の設定されている河川では、他地域産の種苗が繰り返し放流されているため、在来集団の遺伝子汚染が危惧されている。

しかし、和歌山県における在来個体群の遺伝的な構成や、放流による遺伝的攪乱の程度が不明であり、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献・情報

- 1 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館報, 30: 39-57.
 - 2 井口恵一郎・武島弘彦. 2006. アユ個体群の構造解析における進展とその今日的意義. 水産総合研究センター研究報告別冊, 5: 187-195.
 - 3 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 4 和歌山県環境生活部 編. 2019. 和歌山県の外来種リスト. 89pp. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真: 國島大河提供

カワヨウジ *Hippichthys spicifer* (Rüppell, 1838) トゲウオ目 ヨウジウオ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島、台湾等の太平洋、インド洋に分布する。

和歌山県では海南市、御坊市、白浜町、田辺市、串本町、那智勝浦町等の汽水域及び沿岸域で記録がある。



体は楊枝のように細長く、体躯幹部に白色横帯があり、他種との判別は容易である。正確な分布状況等が不明のため、今回は情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献・情報

- 1 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館報, 19: 33-40.
 - 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館報, 30: 39-57.
 - 3 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 平嶋健太郎提供

イッセンヨウジ *Coelonotus leiaspis* (Bleeker, 1854) トゲウオ目 ヨウジウオ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

国内では神奈川県、静岡県、和歌山県、高知県、鹿児島県、沖縄県に分布。琉球列島で多い。

和歌山県では白浜町、すさみ町、串本町から標本に基づき記録されている。頭部から体側にかけて一本の暗色縦帯を持つことが特徴。



河川下流域に生息するヨウジウオ科魚類だが、純淡水域でもよく見られる。海と川を行

き来する両側回遊を行うため、遡上を阻害する河川横断構造物等が生息数を制限すると考えられる。

選定理由

詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19: 33-40.
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30: 39-57.
- 3 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 編. 2001. 山溪カラー名鑑改訂版 日本の淡水魚. 720pp. 山と溪谷社, 東京.
- 4 Motomura, H. & Harazaki, S. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yakushima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1-183.
- 5 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 6 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44: 63-87.

写真: 國島大河提供

テングヨウジ *Microphis brachyurus brachyurus* (Bleeker, 1854) トゲウオ目 ヨウジウオ科

| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 国 |
|--------|-----------|----|------|---|
|--------|-----------|----|------|---|

国内では千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布。和歌山県では、海南市、田辺市、すさみ町、串本町から記録がある。

吻が長いこと、体躯幹輪数が通常 21 であること等が特徴。

選定理由

汽水域から淡水域にかけて生息し、海と川を行き来する通し回遊を行うため、遡上を阻害する河川横断構造物等が生息数を制限すると考えられる。

その詳細な分布や生息数が不明なため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)



参考文献
・情報

- 1 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 編. 2001. 山溪カラー名鑑改訂版 日本の淡水魚. 720pp. 山と溪谷社, 東京.
- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 瀬能 宏・北村利幸. 1982. 加茂川感潮域の魚類 I. 南紀生物, 24 (1): 36-42.
- 4 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44: 63-87.

写真: 國島大河提供

ワニグチボラ *Oedalechilus labiosus* (Valenciennes, 1836) ボラ目 ボラ科

| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 情報不足 (DD) | 国 |
|--------|-----------|----|------|-----------|---|
|--------|-----------|----|------|-----------|---|

国内では幼魚が茨城県以南、成魚は主に琉球列島で見られる。

和歌山県では、印南町、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町から幼魚の標本や情報が得られている。

選定理由

主に沿岸域に生息するボラ科魚類で、上唇下部及び下唇前縁がヤスリ状をなすことが特徴。

詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)



参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎・揖 善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降、紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. 和歌山県立自然博物館館報, 28: 61-67

参考文献
・情報

- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 外山太郎・福地伊美映・山崎和哉. 2021. 茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類 4 種の北限記録. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 6 : 54-65.
- 4 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|---|---|---|
| フウライボラ <i>Crenimugil crenilabis</i> (Forsskål, 1775) ボラ目 ボラ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

国内では幼魚が茨城県以南、成魚については主に琉球列島で見られる。和歌山県では、印南町、白浜町、すさみ町、串本町から幼魚の標本や情報が得られている。



主に沿岸浅所に生息するボラ科魚類で、上唇下部に乳頭状突起が密在することが特徴。和歌山県内における詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎・揖 善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降, 紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. 和歌山県立自然博物館館報, 28 : 61-67.
- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 外山太郎・福地伊美映・山崎和哉. 2021. 茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類 4 種の北限記録. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 6 : 54-65.
写真: 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|-----------|---|-----------|
| オニボラ <i>Ellochelon vaigiensis</i> (Quoy & Gaimard, 1825) ボラ目 ボラ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 情報不足 (DD) | 国 | 情報不足 (DD) |

国内では三重県、和歌山県、鹿児島県、沖縄県で記録があるが、本州では稀。和歌山県内は、白浜町、すさみ町、串本町から幼魚の記録がある。



胸鰭が黒く尾鰭が黄色いため、他種との識別は容易。沿岸浅所及び河川汽水域に生息するボラ科魚類。和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎・揖 善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降, 紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. 和歌山県立自然博物館館報, 28 : 61-67.
- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|---|-----------|----|------|---|---|-----------|
| カマヒレボラ <i>Moolgarda malabarica</i> (Shaw, 1804) ボラ目 ボラ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 情報不足 (DD) |

国内では和歌山県、鹿児島県、沖縄県で記録があるが、本州では稀。和歌山県では、田辺市、白浜町、すさみ町、串本町、那智勝浦町等、県南部から標本や情報が得られている。

内湾浅所及び河川汽水域に生息するボラ科魚類で、第 2 背鰭及び臀鰭の先が尖ること、幽門垂が複雑に分岐すること等が特徴。

和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 福地伊美映・堀部 翔・立原一憲. 2021. 奄美大島初記録のボラ科タイワンメナダ属2種、カマヒレボラとモンナシボラ. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 7: 15-22.
- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44: 63-87.
- 4 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|---|---|---|
| ナンヨウボラ <i>Moolgarda perusii</i> (Valenciennes, 1836) ボラ目 ボラ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

国内では瀬戸内海、和歌山県、沖縄県で記録があるが稀。和歌山県では、県南部沿岸域から標本が得られている。

選定理由

上唇下部は滑らかで、眼を被う脂脰は発達しており、分厚くて虹彩も被う。胸鰭基底の上端には暗色斑が見られること等が特徴。内湾の浅所や漁港周辺に生息するボラ科魚類。和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44: 63-87.

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|---|---|-----------|
| モンナシボラ <i>Moolgarda engeli</i> (Bleeker, 1858) ボラ目 ボラ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | 情報不足 (DD) |

国内では茨城県以南で記録があるが稀。和歌山県では、県南部から標本が得られている。

選定理由

脂脰が発達すること、胸鰭基底上端に黒色斑がないこと等が特徴。内湾浅所及び河川汽水域に生息するボラ科魚類。和歌山県内での詳細な分布状況が不明であるため、情報不足とした。

執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 福地伊美映・堀部 翔・立原一憲. 2021. 奄美大島初記録のボラ科タイワンメナダ属2種、カマヒレボラとモンナシボラ. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 7: 15-22.
- 2 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 3 武内啓明・朝井俊亘・内山りゅう・細谷和海. 2011. 近畿大学農学部所蔵の内山りゅう魚類標本コレクション. 近畿大学農学部紀要, 44: 63-87.
- 4 外山太郎・福地伊美映・山崎和哉. 2021. 茨城県から得られた熱帯・亜熱帯性ボラ科魚類4種の北限記録. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 6: 54-65.

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|---|---|---|
| チャイロマルハタ <i>Epinephelus coioides</i> (Hamilton, 1822) スズキ目 ハタ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

国内では新潟県、和歌山県、高知県、愛媛県、鹿児島県、沖縄県に分布。和歌山県では、御坊市、みなべ町、田辺湾、串本町、那智勝浦町等で記録がある。

選定理由

沿岸の岩礁から汽水域に生息するハタ科魚類で、特に幼魚や若魚は汽水域に現れる。大型で体高が低く、体側にある瞳孔大の赤褐色斑（固定後は暗褐色）が特徴。

和歌山県内における詳細な分布状況が不明なため、情報不足とした。



執筆者 (揖 善継)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし瀨の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30: 39-57.
 - 2 池田博美・中坊徹次 編. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 597pp. 東海大学出版会, 秦野.
 - 3 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 写真: 平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|---|---|---|
| ナンセンハゼ <i>Luciogobius parvulus</i> (Snyder, 1909) スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

陸からの淡水が流入するような岩礫性海岸の砂礫底に生息し、腹鰭を持たない標準体長 4 cm 程のミミズハゼ属魚類。



選定理由

和歌山県内では自然環境の保たれた中北部の沿岸に見られる。生態は不明な点も多いが、和歌山県内で産卵床が確認されたことから、再生産を行っていると考えられる。

山林の荒廃による流入水の減少や沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. 南紀生物, 60 (1): 38-41.
 - 2 平嶋健太郎. 2021. 紀州の鯨 79 ナンセンハゼ. 和歌山県立自然博物館だより, 39 (1): 8.
 - 3 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1): 35-38.
 - 4 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29-96.
- 写真: 平嶋健太郎撮影

| | | | | | | |
|---|-----------|----|------|---|---|---|
| ナガミミズハゼ <i>Luciogobius elongatus</i> Regan, 1905 スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

陸からの淡水が流入するような岩礫性海岸の砂礫底に潜り込んで生息するのに適した、細長い体を持つ標準体長 3 cm 程のミミズハゼ属魚類。



選定理由

和歌山県内では自然環境の保たれた沿岸に見られる。生態は不明な点も多く、計数形質の幅の広さから、複数種を内包していると考えられる。稚魚や熟卵を持つ個体が確認できていることから、和歌山県内で再生産を行っていると考えられる。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. 南紀生物, 60 (1): 38-41.
 - 2 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1): 35-38.
 - 3 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29-96.
- 写真: 平嶋健太郎撮影

ミズヒキナガミミズハゼ *Luciogobius* sp. スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礫性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する、細長い体を持つ標準体長 4 cm 程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では中部の自然環境の保たれた沿岸で見られる。生態は不明な点も多いが、婚姻色を呈した個体も見つかっており、和歌山県内で再生産を行っている可能性がある。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。



執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献・情報

- 1 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1) : 35-38.
- 2 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12 : 29-96.
写真: 平嶋健太郎撮影

イチモンジミミズハゼ *Luciogobius* sp. スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

細長い体を持つ標準体長 4 cm 程のミミズハゼ属魚類。陸からの淡水が流入するような岩礫性海岸の砂礫底に潜り込んで生息する。

和歌山県内では中部の自然環境の保たれた沿岸で見られる。生態は不明な点も多いが、婚姻色を呈した個体も見つかっていることから、和歌山県内で再生産を行っている可能性がある。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。



執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献・情報

- 1 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1) : 35-38.
- 2 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12 : 29-96.
写真: 平嶋健太郎撮影

ヤリミミズハゼ *Luciogobius platycephalus* Shiogaki & Dotsu, 1976 スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

選定理由

陸からの淡水が流入するような岩礫性海岸の礫底に多く見られる。頭部前方が特に扁平し、礫中に潜行しやすい形状になっており、細長い体を持つ標準体長 6 cm 程のミミズハゼ属魚類。

和歌山県内では紀北、紀中地域の礫の多い海岸にオオミミズハゼと同所的に見られる。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。



執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. 南紀生物, 60 (1): 38-41.
 - 2 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1): 35-38.
 - 3 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29-96.
- 写真: 平嶋健太郎撮影

ハウチワヤリミミズハゼ *Luciogobius* sp. スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

陸からの淡水が流入するような岩礁性海岸の礫底海岸で多く見られる。頭部前方が特に扁平し、膜鰭が切れ込んだ胸鰭を持つ、標準体長 6 cm 程のミミズハゼ属魚類。



選定理由

和歌山県内では紀中地域の礫の多い海岸にヤリミミズハゼやオオミミズハゼと同所的に見られる。詳しい生態は不明な点が多い。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者 (平嶋健太郎)

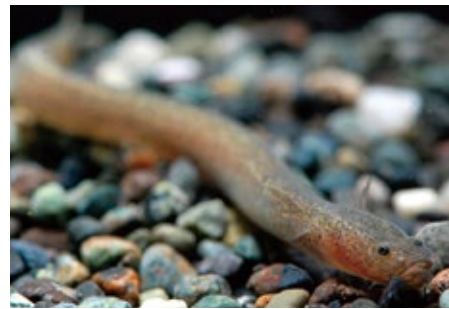
参考文献
・情報

- 1 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1): 35-38.
 - 2 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29-96.
- 写真: 平嶋健太郎撮影

カマヒレミミズハゼ *Luciogobius* sp. スズキ目 ハゼ科

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |
|--------|-----------|----|------|---|---|---|

陸からの淡水が流入するような海岸の砂礫底に見られる。形状が三角形に近い胸鰭を持つ、標準体長 4 cm 程のミミズハゼ属魚類。



選定理由

和歌山県内では紀中、紀南地域の海岸にオオミミズハゼやナガミミズハゼ等と同所的に見られる。詳しい生態は不明な点が多い。

山林の荒廃による流入水の減少や土砂の流入による底質間隙の消失、沿岸での護岸改修工事等で生息地が失われている。

執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. 南紀生物, 60 (1): 38-41.
 - 2 前田知範・平嶋健太郎. 2021. 和歌山県みなべ町埴田における 12 種のミミズハゼ属魚類の出現状況. 南紀生物, 63 (1): 35-38.
 - 3 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). 東海自然誌, 12: 29-96.
- 写真: 平嶋健太郎撮影

| | | | |
|--------|---|------|------|
| アカウオ | <i>Paratrypauchen microcephalus</i> (Bleeker, 1860) | スズキ目 | ハゼ科 |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 |
| | | | - |
| | | 国 | - |

沿岸部の泥底から軟泥底に生息し、眼や胸鰭等が退化した標準体長 10 cm 程のアカウオ属魚類。和歌山県内では主に和歌浦湾や紀の川河口沖で生息が確認され、紀伊水道に生息していると思われるが、詳しい生態は不明な点が多い。



執筆者 (平嶋健太郎)

- 参考文献・情報
- 1 道津喜衛. 1957. アカウオおよびワラスポの生態・幼期. 九州大学農学部学藝雑誌, 16 (3) : 371-380.
 - 2 平嶋健太郎. 2012. 紀州の鯨 41 アカウオ. 和歌山県立自然博物館だより, 29 (4) : 8.
 - 3 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野. 写真: 平嶋健太郎撮影

| | | | |
|----------|-----------------------------|------|-------------|
| ヒゲワラスポ種群 | <i>Trypauchenopsis</i> spp. | スズキ目 | ハゼ科 |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 |
| | | | 情報不足 (DD) |
| | | 国 | 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) |

和歌山県内では、串本町の 2 箇所で 2 個体の標本が採集されているが、他に記録がない。体は長細く伸長する。目は小さく、頭部はひげ状の突起で覆われるが、ひだ状突起はない。仔稚魚時には海域で分散するが、ほぼ一生を河川河口域の軟泥中で過ごす。



魚類

本種が本来生息する干潟環境は、和歌山県内においても、埋め立てや港湾工事による消失、流入河川での改修や隣接する陸域の改変によって著しく劣化の一途を辿っている。

選定理由

Maeda and Tachihara (2014) は、砕波帯で採集された仔稚魚から、沖縄島のヒゲワラスポには 2 タイプがいることを示した。その後、Maeda *et al.* (2022) は、沖縄島から採集された仔魚を用いて、これまで 1 種とされてきたヒゲワラスポにはホシドメワラスポ *T. limicola* (Smith, 1964) とマバラヒゲワラスポ *T. intermedia* Volz, 1903 の 2 種が含まれていることを示した。なお、Hayashi and Ito (1978) が「ヒゲワラスポ」という和名の基準とした標本には両種が混在し、そのどちらの学名も使用されたことがあることから、Maeda *et al.* (2022) は混乱をさけるため、両種の標準和名を新たに提唱している。

Maeda *et al.* (2022) は、仔魚のみならず稚魚や成魚についても各鰭の鰭条数の組み合わせで識別できるとしているが、実際のデータは示されておらず、その真偽は明らかでない。また、沖縄島以外における両種の分布については言及しておらず、現状で和歌山県における両種の分布は不明である。したがって、ここではヒゲワラスポ種群 *Trypauchenopsis* spp. として扱った。

執筆者 (國島大河)

- 参考文献・情報
- 1 Hayashi, M. & Itoh, T. 1978. Gobioid fishes of Ryukyu Islands, southern Japan (I). Science Report of the Yokosuka City Museum, 24 : 59-82, pls 10-21.
 - 2 平嶋健太郎・揖 善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降、紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. 和歌山県立自然博物館館報, 28 : 61-67.
 - 3 環境省. 2020. レッドリスト, 汽水・淡水域. 環境省ホームページ : <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2021 年 12 月 13 日参照)
 - 4 Maeda, K., Hanahara, N., Uehara, M. & Tachihara, K. 2022. Larval study revealed diversity and life-history traits of crypto-benthic eel gobies. Journal of Fish Biology, 101 (6) : 1411-1427.
 - 5 Maeda, K. & Tachihara, K. 2014. Larval fish fauna of a sandy beach and an estuary on Okinawa Island, focusing on larval habitat utilization by the suborder Gobioidi. Fisheries Science, 80 (6) : 1215-1229.

参考文献
・情報

- 6 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 7 山下龍之丞・尾山大知・碧木健人・鎗田めぐ・山川宇宙. 2022. 関東地方沿岸におけるヒゲワラスボおよびコガネチワラスボの記録：2種の出現記録の増加傾向とその要因. *Ichthy - Natural History of Fishes of Japan*, 20, 1-12.
- 写真：平嶋健太郎提供

| | | | | | | |
|--|-----------|----|------|---|---|---|
| ニクハゼ <i>Gymnogobius heptacanthus</i> (Hilgendorf, 1879) スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

選定理由

沿岸部の汽水域や藻場に生息する、標準体長 6 cm 程のウキゴリ属魚類。

和歌山県内では 1930 年代に和歌浦湾から記録があるが、近年確認できていない。近縁な類似種と混同されている可能性もあるが、詳細は不明。



執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 木下好治. 1936. 雌だけが婚姻色を現す特異なるニクハゼ. *動物学雑誌*, 48: 257-259.
- 写真：平嶋健太郎撮影 (県外産)

| | | | | | | |
|---|-----------|----|------|-----------|---|---|
| ピリンゴ <i>Gymnogobius breunigii</i> (Steindachner, 1880) スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | 情報不足 (DD) | 国 | - |

選定理由

汽水域や藻場に生息する、標準体長 6 cm 程のウキゴリ属魚類。和歌山県内ではいくつかの汽水域で記録されているが、分布がまばらであり、詳細な生態学的情報や個体群情報は不明。

執筆者 (平嶋健太郎)



参考文献
・情報

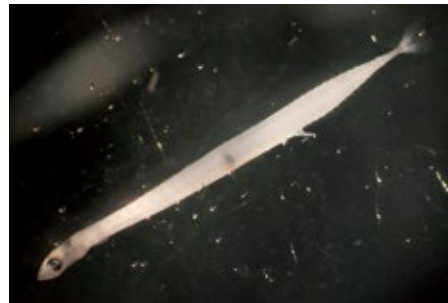
- 1 平嶋健太郎. 2010. 紀州の鯊 34 ピリンゴ. 和歌山県立自然博物館だより, 28 (1): 8.
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19: 33-40.
- 3 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30: 39-57.
- 4 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- 写真：平嶋健太郎撮影

| | | | | | | |
|---|-----------|----|------|---|---|---|
| シラスウオ属の一種 <i>Schindleria</i> sp. スズキ目 ハゼ科 | | | | | | |
| 県カテゴリー | 情報不足 (DD) | 旧県 | 2012 | - | 国 | - |

選定理由

サンゴ礁あるいはサンゴ群落のある海域に生息し、幼形成熟するハゼ科魚類の一種で、体サイズや生殖突起の形状等に幅広い変異が見られることから、いくつかの隠蔽種が含まれると考えられる。

和歌山県内では串本町潮岬で数個体が確認されており、国内の北限記録である。詳細な生態は不明であるが、成熟卵を持った個体が採集されていることから、和歌山県内の沿岸でも再生産している可能性がある。



執筆者 (平嶋健太郎)

参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2014. 本州初記録のシラスウオ属の1種. 南紀生物, 56 (2) : 129-130.
- 2 平嶋健太郎. 2017. 紀州の鯊 60 シラスウオ類. 和歌山県立自然博物館だより, 34 (2) : 8.
写真: 平嶋健太郎撮影

アブラハヤ *Rhynchocypris lagowskii steindachneri* (Sauvage, 1883) **コイ目** **コイ科**

| 県カテゴリー | 学術的重要 (SI) | 旧県 | 2012 | 学術的重要 (SI) | 国 | |
|--------|------------|----|------|------------|---|--|
|--------|------------|----|------|------------|---|--|

選定理由

本州北部から岡山県に分布し、河川上・中流域の流れが緩やかなところに生息する。和歌山県では、紀北及び紀中地域の河川で見られる。和歌山県の個体群は、本種の分布の南限にあたり、生息地も局所的である。



なお、国内において、人為的な移入（主に放流アユへの混入）によって、定着やタカハヤとの交雑を生じた例がある。和歌山県では在来個体群として両種が生息しており、生物地理学的に興味深い。

執筆者（國島大河）

参考文献
・情報

- 1 中坊徹次 編. 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 2428pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 2 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

オオシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type A **コイ目** **ドジョウ科**

| 県カテゴリー | 学術的重要 (SI) | 旧県 | 2012 | | 国 | |
|--------|------------|----|------|--|---|--|
|--------|------------|----|------|--|---|--|

選定理由

かつて「シマドジョウ」とされた種群は、遺伝学的解析から少なくとも4集団に分けられ、本種はそのうちの1つである。本種は、本州西部や四国、九州における一部の瀬戸内海流入河川を中心に分布し、若狭湾周辺や中国地方西部からも記録がある。



和歌山県の「シマドジョウ」は全て本種とされ、紀伊半島東部はニシシマドジョウとの分布境界に当たる。ニシシマドジョウとは、外見からの区別が困難だが、赤血球数やミトコンドリアDNAのシトクロム**b**領域の相違から判別できる。

河川上・中流域で、流れがあり岸辺の植生が豊富な砂礫底を好むが、流れの緩やかな場所にたまった落ち葉の中に潜むこともある。河川改修や護岸工事により、生息に適した淵やトロ場が減少している。

執筆者（國島大河）

参考文献
・情報

- 1 Hitotsumachi, S., Sasaki, M. & Ojima, Y. 1969. A comparative karyotype study in several species of Japanese loaches (Pisces, Cobitidae). Japanese Journal of Genetics, 44 (3) : 157-161.
- 2 中島 淳・洲澤 譲・清水孝昭・斎藤憲治. 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59 (1) : 86-95.
- 3 中島 淳・内山りゅう. 2017. 日本のドジョウ. 223pp. 山と溪谷社, 東京.
写真: 國島大河撮影（県外産）

オカメハゼ *Eleotris melanosoma* Bleeker, 1853 **スズキ目** **カワアナゴ科**

| 県カテゴリー | 学術的重要 (SI) | 旧県 | 2012 | 学術的重要 (SI) | 国 | |
|--------|------------|----|------|------------|---|--|
|--------|------------|----|------|------------|---|--|

選定理由

主に静岡県から琉球列島に分布し、小笠原諸島でも記録がある。本種の主な分布地は亜熱帯から熱帯域だと考えられるが、和歌山県では紀南地域にて成熟個体が採集されていることから、再生産していると推察される。



河口汽水域から感潮域最上部に生息し、落ち葉の堆積した流れのゆるやかな場所で見られる。

選定理由 和歌山県では、同属のカワアナゴやチチブモドキ、テンジクカワアナゴと同所的に生息する場所があり、種間関係がどのようになっているのか大変興味深い。

執筆者（國島大河）

**参考文献
・情報**

- 1 明仁親王. 1967. 日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の4種について. 魚類学雑誌, 14 (4): 135-166.
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19: 33-40.
- 3 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30: 39-57.
- 4 玉田一晃. 1995. 会津川の魚類相. 南紀生物, 37 (1): 8-14.
- 5 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

テンジクカワアナゴ *Eleotris fusca* (Forster, 1801) スズキ目 カワアナゴ科

| 県カテゴリー | 学術的重要 (SI) | 旧県 | 2012 | 学術的重要 (SI) | 国 | |
|--------|------------|----|------|------------|---|--|
|--------|------------|----|------|------------|---|--|

茨城県以南の和歌山県、高知県、宮崎県、大隈諸島、琉球列島に分布し、小笠原諸島でも記録がある。琉球列島では淡水域に生息する。

和歌山県では河口汽水域から淡水域にかけての特に落ち葉の堆積した流れのゆるやかな場所で見られる。

和歌山県では紀南で成熟個体が採集されており、再生産していると推察される。また、同属のカワアナゴやチチブモドキ、オカメハゼと同所的に生息する場所があり、種間関係がどのようになっているのか大変興味深い。

執筆者（國島大河）



**参考文献
・情報**

- 1 明仁親王. 1967. 日本産ハゼ科魚類カワアナゴ属の4種について. 魚類学雑誌, 14 (4): 135-166.
- 2 平嶋健太郎・中谷義信. 2001. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相 (予報). 和歌山県立自然博物館館報, 19: 33-40.
- 3 平嶋健太郎・中谷義信. 2012. 和歌山県那智勝浦町ゆかし潟の魚類相. 和歌山県立自然博物館館報, 30: 39-57.
- 4 小林大純・山川宇宙・内田大貴・碧木健人・外山太一郎. 2021. 茨城県鹿島灘流入水域から得られたカワアナゴ属魚類2種, テンジクカワアナゴとチチブモドキ. Ichthy - Natural History of Fishes of Japan, 16, 5-10.
- 5 和歌山県環境生活部 編. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック. 442pp. 和歌山県環境生活部環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
写真: 平嶋健太郎提供

シマヒレヨシノボリ *Rhinogobius tyoni* Suzuki, Kimura & Shibukawa, 2019 スズキ目 ハゼ科

| 県カテゴリー | 学術的重要 (SI) | 旧県 | 2012 | 学術的重要 (SI) | 国 | 準絶滅危惧種 (NT) |
|--------|------------|----|------|------------|---|-------------|
|--------|------------|----|------|------------|---|-------------|

瀬戸内海沿岸部の東側の淡水域に分布し、ため池等の止水域に生息する、標準体長4 cm程のヨシノボリ属魚類。

和歌山県では、広川水系以北が本種の自然分布と考えられる。一方で、紀南地域のダム等に人為的に放流（混入）された個体群が見られる。かつては、トウヨシノボリ縞縞型とされていた。

執筆者（平嶋健太郎）



参考文献
・情報

- 1 平嶋健太郎. 2011. 紀ノ川および有田川流域におけるシマヒレヨシノボリの分布. 南紀生物, 53 (1) : 47-50.
- 2 平嶋健太郎. 2014. 紀伊半島におけるシマヒレヨシノボリの地理的分布. 和歌山県立自然博物館報, 32 : 41-62.
- 3 平嶋健太郎. 2015. 紀州の鯊 53 シマヒレヨシノボリ. 和歌山県立自然博物館だより, 32 (4) : 8.
- 4 平嶋健太郎. 2016. トウカイヨシノボリ *Rhinogobius* sp. TO の仔稚魚の成長にともなう形態変化と塩分耐性およびシマヒレヨシノボリ *R. sp. BF* との比較. 南紀生物, 58 (1) : 1-6.
- 5 平嶋健太郎. 2016. ヨシノボリ属魚類の生活史の多様性、その適応について. 海洋と生物, 225 : 363-369.
- 6 平嶋健太郎. 2017. 和歌山県北部小水域におけるシマヒレヨシノボリの産卵期と個体群年変動. 南紀生物, 59 (1) : 48-51.
- 7 平嶋健太郎・中村和矢. 2014. シマヒレヨシノボリの水槽内産卵および成長にともなう外部形態の変化. 魚類学雑誌, 61 (2) : 53-58.
- 8 Suzuki, T., Kimura, S. & Shibukawa, K. 2019. Two new lentic, dwarf species of *Rhinogobius* Gill, 1859 (Gobiidae) from Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 48 : 21-36.

写真：平嶋健太郎撮影